

長野市の歴史的風致形成の背景

1 ◆ 自然的、地理的環境

(1) 位置

本市は、東京から約180キロメートル、名古屋から約200キロメートル、新潟から約160キロメートルの距離にあり、日本のほぼ中央にある長野県の北部に位置する。平成17年(2005)と平成21年(2009)年の近隣町村との合併により市域が拡大し、広さは、東西36.5キロメートル、南北41.7キロメートルで、面積は、約834.85平方キロメートルある。標高の最高地点は、新潟県境に位置する高妻山の2,352.8メートル、最低地点は、市の北東の豊野町浅野地区に位置する千曲川下流端の327.4メートルで、標高差は2,025.4メートルである。





長野県内の市町村



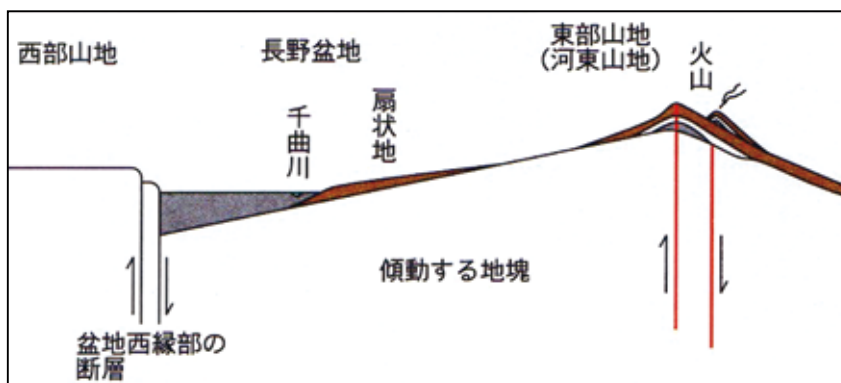
本市へのアクセス

(2) 地形、地質、水質

本市は、北部フォッサマグナ地域に含まれ、地形は、中央の長野盆地とその東西にある西部山地と東部山地に大別される。かつて海だった場所に堆積した新第三紀層が、これらの山地を構成している。

北西部は、標高2,000メートルを超える急峻な戸隠連峰、標高1,200メートル以下の地すべりの多い比較的なだらかな山地があり、その山地を裾花川や土尻川が東へ流れ、犀川に合流する。犀川は、市の西側からほぼ東に向かって山地の中を蛇行しながら流れ、やがて千曲川に合流する。千曲川は、市内を南西から北東方向に流れる。3つの川の合流点の周辺一帯は、善光寺平と呼ばれる盆地であり、河川の氾濫でできた平地が広がり、昔から主に耕作地として活用されてきた。

西部山地の北には、第四紀火山である飯縄火山が位置し、その山体や山麓は火山噴出物で構成される。長野盆地の周辺にある皆神山や髻山なども第四紀に噴火した小規模火山である。中央部にある長野盆地は、第四紀の中ごろから長野盆地西縁断層の活動が活発化して落ち込んだ部分で、そこに千曲川や犀川、裾花川等が運んだ河川性や湖沼性の堆積物が堆積している。



長野盆地の東西模式断面図



シナノホタテ



シガラミサルボウ

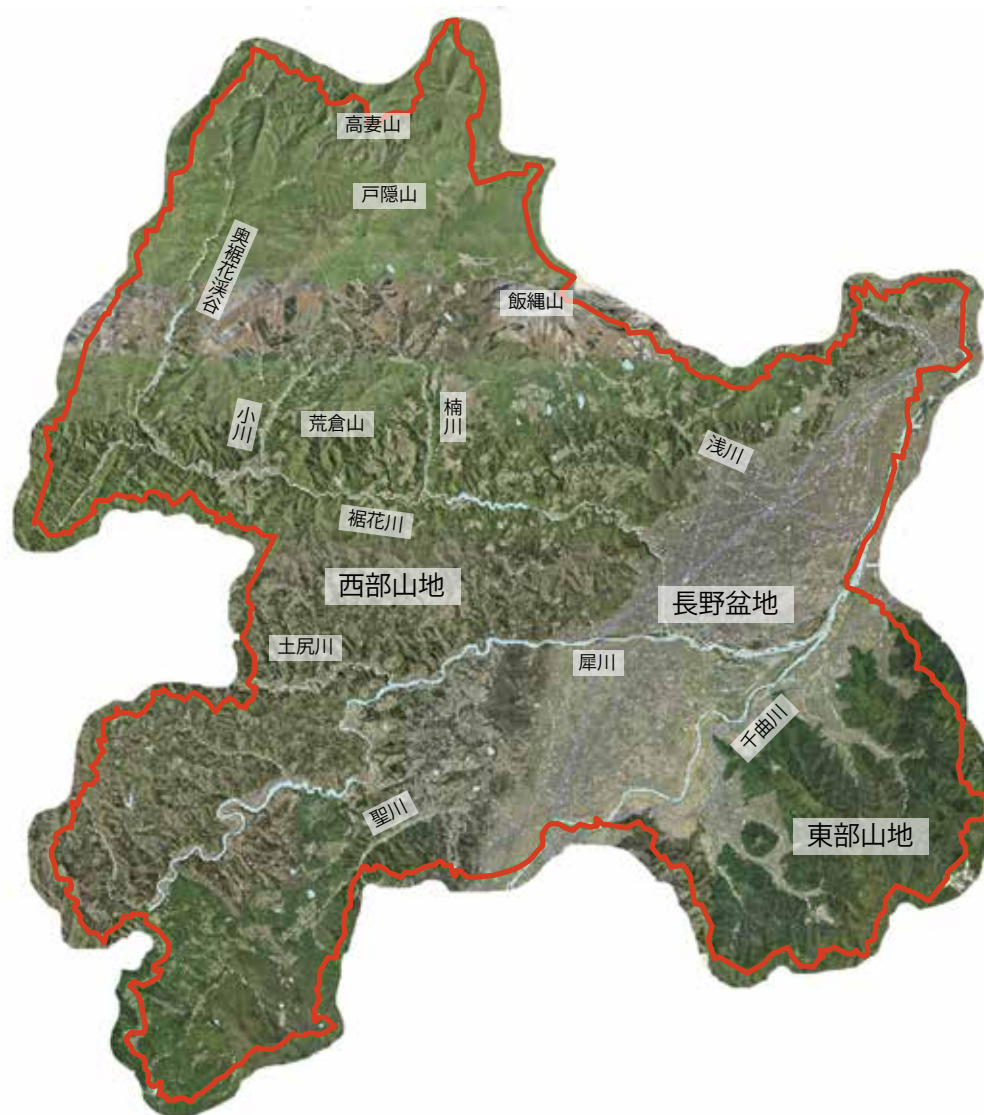


浅川油井

西部山地は、約1,000万年から200万年前にかけて、海底に堆積した泥、砂、礫などの地層や海底火山の噴出物である溶岩や凝灰角礫岩類が分布する。西部山地は、現在も隆起を続ける地域で、硬い地層である溶岩や凝灰角礫岩類でできた戸隠連峰や虫倉山系、富士の塔山から三登山にかけて、険しい山地が見られる。これらの海成層から、日本の石油産業の発祥の地ともなった浅川産の石油や、市内各地から海生の貝類をはじめ各種の化石が産出される。また、雪の多い戸隠連峰から流下する裾花川は水量も多く、この地域が隆起を続けていることもあって浸食が進み、地層が連続して露出している。地層の積み重なりや化石の産出状況、各種の堆積構造のほか、風化、浸食でできた構造や地形を学ぶことができる。

東部山地は、西部山地より古い約2,000万年から約1,000万年前の地層から構成され、海底火山の噴出物や深い海に堆積した泥岩層などからなる。その後、約1,000万年前から、地下からマグマが入り込んできて、硬い岩石(石英閃緑岩類)ができた。それらは、現在の温泉の熱源ともなっている。東部山地の硬い地層や岩石は、大室古墳群や松代城の石垣に使われ、松代大本営が立地する条件ともなった。この山地の北部には、四阿山から志賀高原にかけての第四紀火山が噴出した。

長野盆地の西縁部には、活断層帯があり、西部山地の隆起と長野盆地の沈降をもたらしている。長野盆地西縁部の丘陵には、断層の動きで長野盆地が湖となったことを示す豊野層も分布する。この活断層は、善光寺地震の震源ともなった。この断層の動きで、犀川や裾花川などにより扇状地がつくられ、この扇中央部に善光寺が立地し、その南側には門前町が栄え、中心市街地となってきた。長野盆地の沈降は今も続いており、河川が流れ込み氾濫原を形成している。河川の運んだ土砂の自然堤防の部分が、島と呼ばれる微高地になっており、集落が形成されてきた。



(3) 気 候

本市は、周囲を山地に囲まれる盆地地形であると同時に、西部山地を構成している戸隠連峰や飯縄山などが、日本海からの北西の季節風を遮る地形となっているため、内陸性気候の特徴が顕著にみられる。

気温は、年間の寒暖差が大きく、夏期の最高気温は8月の平均気温で摂氏31度まで上がり、冬期の最低気温は1月で摂氏マイナス4度以下まで下がる。年間を通して一日の気温差も大きく、特に4月は、12度を越える寒暖の差がある。

雨は、夏季に多いものの、年間を通して降水量が少ないのが特徴で、令和4年(2022)を例にとると、長野地方気象台の年間平均降水量は約1,023ミリメートルで、全国平均降水量の約1,661ミリメートル(平成3年(1991)から令和2年(2020)までの平年値)をかなり下回る。

市の北西部の戸隠・鬼無里地区の新潟県境付近では、積雪が多く、日本海側気候が見られる。高妻山をはじめとする高山が連なり、夏季の6月から9月にかけても降水量が多く、鬼無里地区では年間降水量は約1,415ミリメートル(令和4年(2022))に達する。

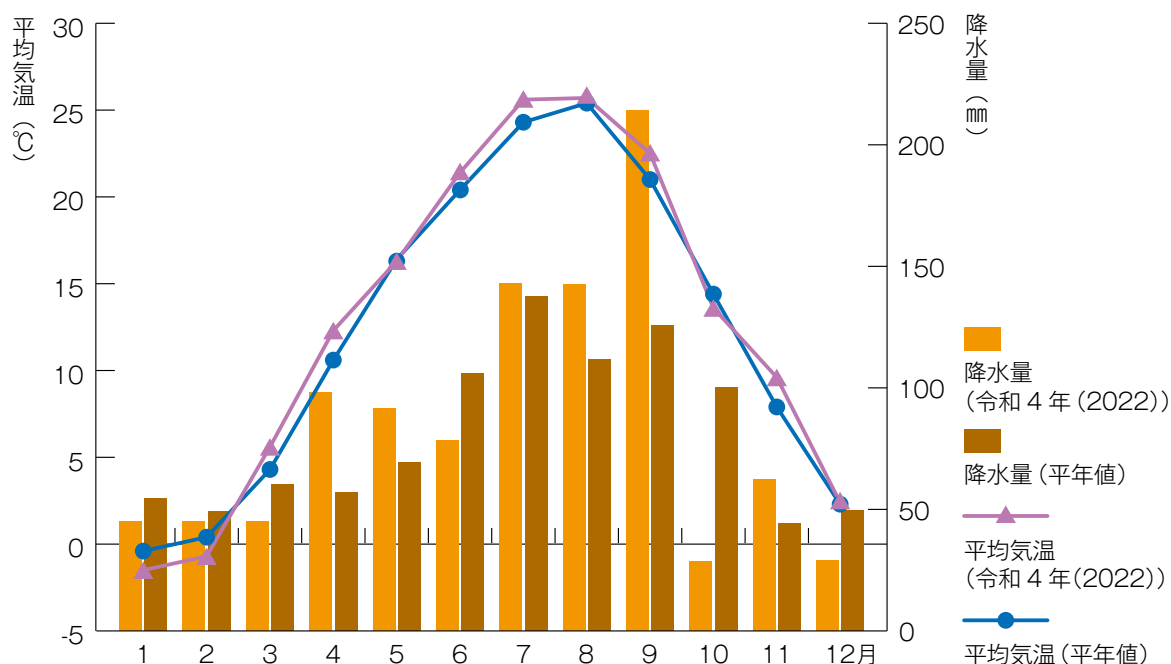
■ 年間の気温、降水量の推移

(単位: °C、mm、h)

月 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
													年合計
平均 気温	-1.5	-0.7	5.6	12.3	16.3	21.4	25.6	25.7	22.5	13.6	9.6	2.4	12.7
	-0.4	0.4	4.3	10.6	16.4	20.4	24.3	25.4	21.0	14.4	7.9	2.3	12.3
最高 気温	2.3	3.6	12.1	19.5	23.1	27.8	31.7	31.0	27.7	19.2	15.3	7.0	18.4
	3.8	5.3	10.3	17.4	23.2	26.1	29.7	31.1	26.2	19.7	13.4	6.9	17.8
最低 気温	-5.0	-4.4	0.4	6.6	10.4	16.8	21.7	21.8	19.0	9.2	5.0	-1.4	8.3
	-3.9	-3.7	-0.5	4.9	10.9	16.1	20.5	21.5	17.2	10.3	3.4	-1.5	7.9
降水 量	45.0	45.0	45.0	98.0	91.5	78.5	143.0	142.5	214.0	28.5	62.5	29.0	1022.5
	54.6	49.1	60.1	56.9	69.3	106.1	137.7	111.8	125.5	100.3	44.4	49.4	965.1
日照 時間	139.1	123.0	189.7	208.2	212.1	205.5	193.1	167.6	169.6	145.5	147.8	140.1	2041.3
	128.4	140.2	173.3	199.4	214.8	167.4	168.8	201.1	151.2	152.1	142.3	131.1	1969.9

- ・ 上段は、令和4年(2022)、下段は平年(平成3(1991)~令和2年(2020)の平均値)
- ・ 最高、最低気温の上段は、月の平均値

(資料: 気象庁)



(4) 自然

本市は、市域が広大であることから、地域ごとに異なる多様性のある自然がみられる。地形は、山地、中山間地から扇状地、盆地の平坦部に分けられ、それぞれの特徴は次のようになる。

ア 山地

飯縄山をはじめとし、西岳から戸隠山、高妻山、乙妻山に至る戸隠連峰、さらに、堂津岳から中西山に至るまでの北安曇郡との境となる山々と、それらに囲まれた裾花川源流域がある。これらの山々には、飯縄山や高妻山への登山者のほかは、ほとんど人が入らない。市内でもっとも標高が高く、積雪も多い地域で急峻な地形となっており、多雪地域に適応したトガクシソウ



大望峠
(鬼無里と戸隠の境にある峠から戸隠連峰や北アルプスを望む) (ながの百景から)

などトガクシが種名につく植物がみられる。手つかずの広大な自然が残る地域で、貴重な自然遺産と考えられ、妙高戸隠連山国立公園にも指定されている。

イ 中山間地から扇状地

市域のうち最も広い面積を占め、長い年月にわたって人手が加わって成立してきた自然となっている。人間の活動が、適度に混ざることによって多様性のある自然を形成してきた。コナラやカスミザクラなどを主とした落葉広葉樹林やアカマツ林など人手の加わった二次林が分布し、そこに水田や畑地、草地、集落などがモザイク状に入り組んでいる。



浅川の棚田 (ながの百景から)

さらに、地質や河川などの地形の特徴が境界となって動植物の違いがみられる。里山地域は、地すべり地で生じる湧水や緩斜面を利用して棚田がつくられてきた。また、降水量が少ないこともあってため池が築造されてきた。

ウ 盆地の平坦部

千曲川は、善光寺平に入ると勾配が緩やかとなり、蛇行して流れている。瀬、淵、ワンド、たまりなど多様な環境があり、そこに動植物が生息、生育している。犀川は、西山山地から善光寺平に入ると大きな扇状地を形成し、砂礫がつくる河原がみられる。安茂里地区のコムラサキの集団ねぐらやコアジサシなどの礫河原に営巣する鳥類にとって、重要な生息場所となっている。



こしき岩から望む善光寺平（ながの百景から）

かつての千曲川が蛇行していた跡(河跡湖)の金井池、冬季にカモ類などが渡ってくる辰巳池などのため池、さらにホタルの生息する八幡川などの水辺環境があり、いずれも市街地のオアシスとして貴重な場所になっている。千曲川や犀川に流れ込む河川の周辺にも自然が残っている。

2 ❖ 社会的環境

(1) 市域の変遷

慶長6年(1601)、長野村、箱清水村、七瀬川原村、三輪村の一部(正徳4年(1714)から平柴村)が善光寺領となり、長野村の中心部は、善光寺町として発展した。慶長16年(1611)には、北国街道善光寺宿となり、町の基礎が築かれた。

明治4年(1871)2月、旧善光寺領の長野村は中野県の管轄となり、同年6月に中野県は長野県と改称され、長野村に仮県庁が置かれた。明治9年(1876)に長野県と筑摩県が合併し、長野町は長野県の県都となった。

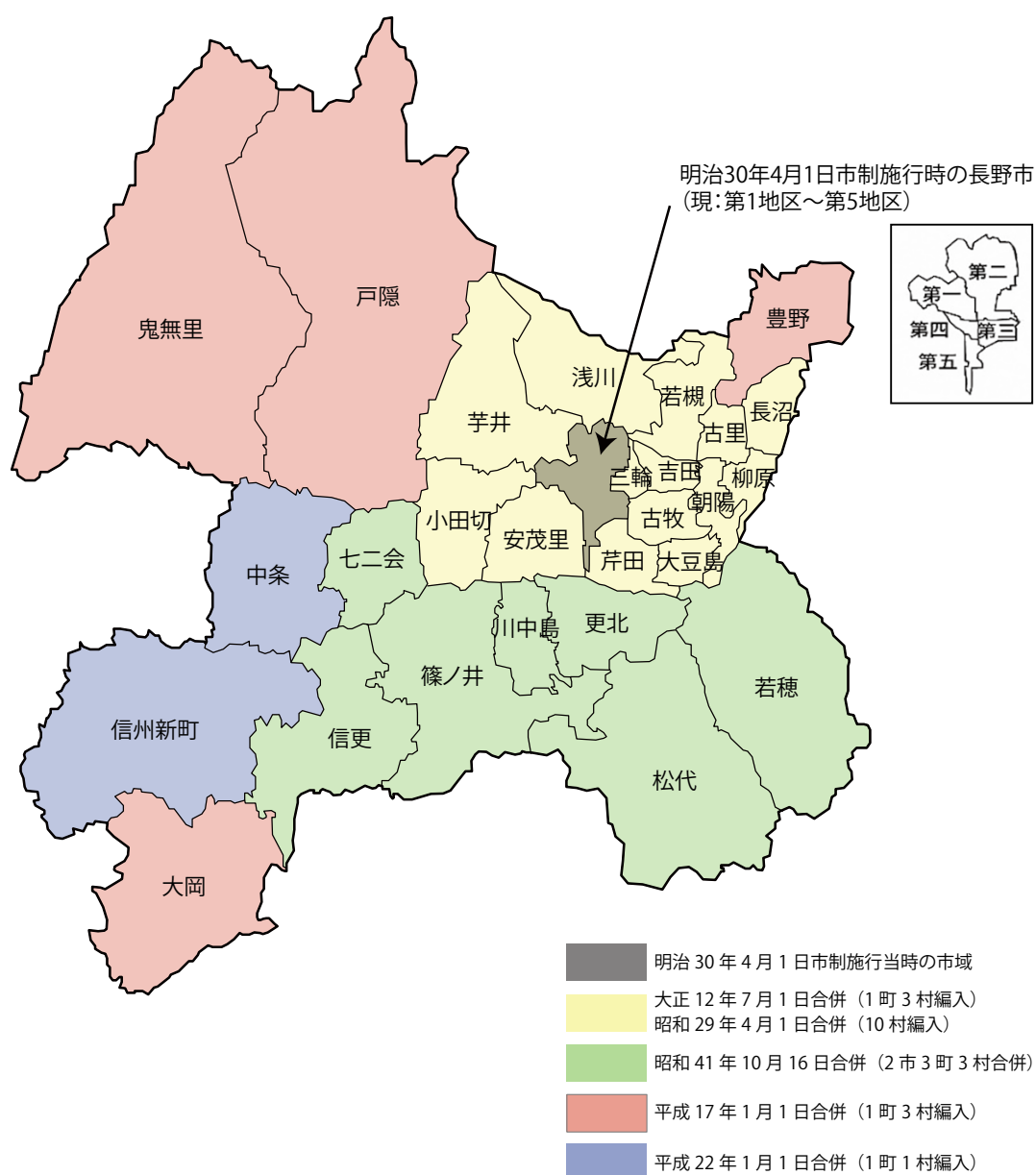
明治22年(1889)の町村制施行により長野町と鶴賀、西長野、南長野の3町及び茂菅村が合併して新たに長野町となり、明治30年(1897)の市制施行により県内で最初の市制が施行された。

その後、大正12年(1923)に隣接する1町3村を、昭和29年(1954)に隣接の10か村を編入合併して市域が拡大し、道路整備、鉄道輸送の強化による産業の発展と相まって近代的な都市としての基礎が築かれた。

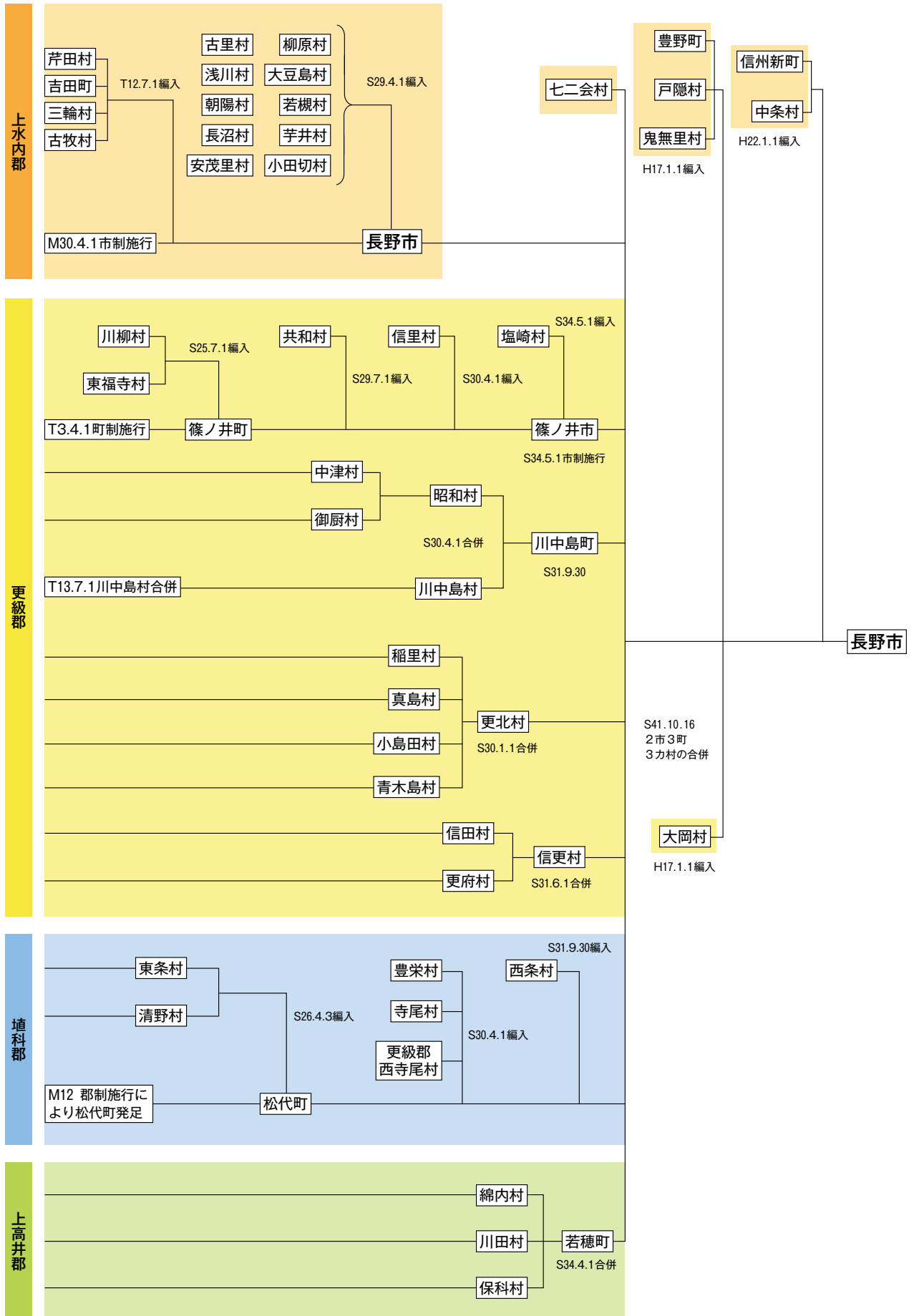
昭和41年(1966)に長野市、篠ノ井市、松代町、若穂町、川中島町、更北村、七二会村及び信更村の2市3町3村の合併により、面積404平方キロメートル、人口27万人の都市となった。

平成9年(1997)に市制施行100周年を迎え、平成10年(1998)に第18回オリンピック冬季競技大会、第7回パラリンピック冬季競技大会が開催された。平成11年(1999)に中核市に移行し、これまで以上に市民に身近な行政をスピーディに処理できることになった。

平成17年(2005)1月に豊野町、戸隠村、鬼無里村及び大岡村を、平成22年(2010)1月に信州新町及び中条村を編入合併し、現在に至っている。



現在の長野市域と市町村合併の経緯



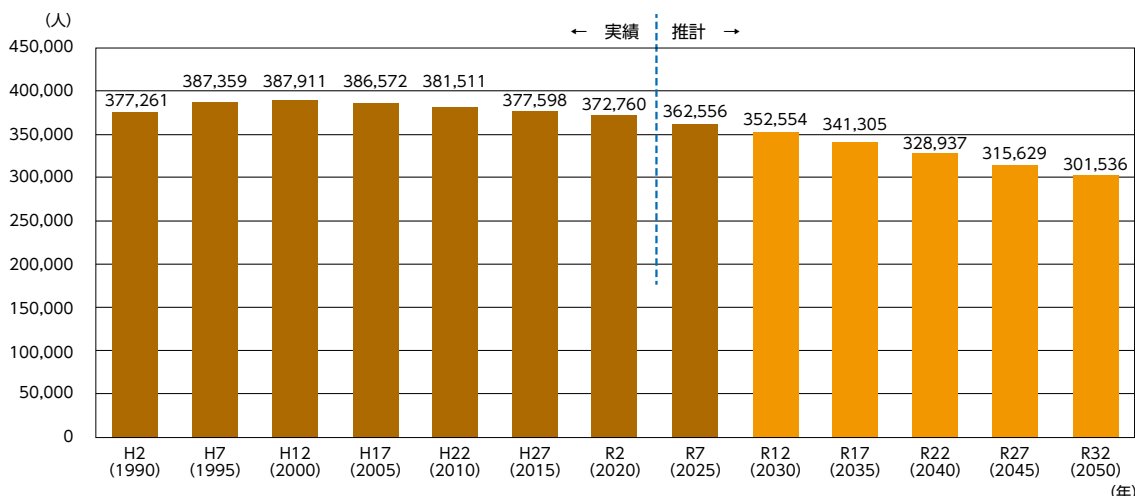
合併・編入の変遷

(2) 人口動態

ア 人口・世帯数

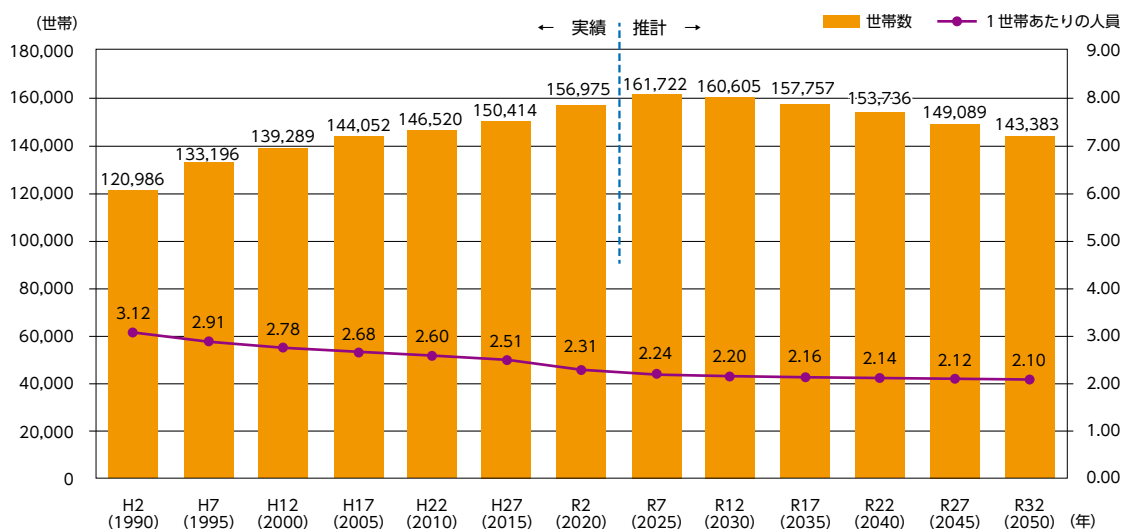
本市の人口のピークは、平成12年(2000)の387,911人で、それ以降は減少に転じている。今後も人口が徐々に減少していくとともに、旧合併市町村を含めた周辺地域の人口減少と、その受け皿となる長野市街地への人口流入が続いていくと予想されている。また、県外(特に東京)への人口移動の傾向が見られる。

■ 総人口



資料：企画課（令和2年までは「国勢調査」、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」に準拠した推計）

■ 世帯数



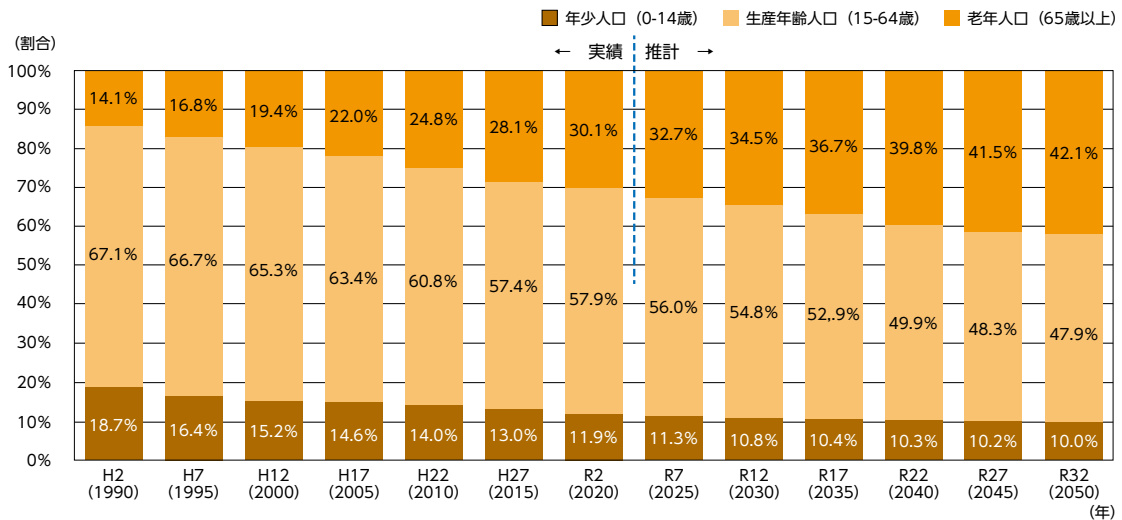
資料：企画課（令和2年までは「国勢調査」結果、令和7年以降は推計）

イ 年齢区分別人口

年齢構成をみると、年少人口、生産年齢人口の割合が減少する一方、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行していることがわかる。

平成22年(2010)の老年人口の割合は、24.8%であったが、令和2年(2020)に30.1%となり、10年間で約5%増加している。

■ 年齢3区別人口



資料：企画課（令和2年までは「国勢調査」、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」に準拠した推計）
注：実際には、年齢不詳が含まれていないため、3区分の合計が必ずしも100%にならない

ウ 地区別人口・世帯数

平成27年(2015)と令和2年(2020)の国勢調査の人口を比較すると、増加した地区は、更北と川中島で、これらの地区は前回から引き続いて増加となった。10%以上の減少は、7地区であった。

世帯数については、5地区で前回から引き続いて増加した。減少は9地区であった。

■ 長野市管内別地区別人口、世帯数及び人口密度

(単位：世帯、人)

地区名	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	令和2年10月1日				平成27年10月1日				増減率				
			世帯数	総数	男	女	世帯数	総数	男	女	世帯数	人口増減数	総数	男	女
長野県	13,561.56	151.0	832,097	2,048,011	1,000,389	1,047,622	807,108	2,098,804	1,022,129	1,076,675	3.1%	△ 50,793	△ 2.4%	△ 2.1%	△ 2.7%
長野市	834.81	446.5	156,975	372,760	181,284	191,476	150,414	377,598	182,843	194,755	4.4%	△ 4,838	△ 1.3%	△ 0.9%	△ 1.7%
長野管内	160.45	1,378.7	98,286	221,213	107,847	113,366	92,902	221,404	107,433	113,971	5.8%	△ 191	△ 0.1%	0.4%	△ 0.5%
第一	3.47	1,682.1	2,881	5,837	2,889	2,948	2,850	5,963	2,915	3,048	1.1%	△ 126	△ 2.1%	△ 0.9%	△ 3.3%
第二	4.37	2,672.3	5,378	11,678	5,513	6,165	5,116	11,774	5,554	6,220	5.1%	△ 96	△ 0.8%	△ 0.7%	△ 0.9%
第三	1.44	4,659.7	3,445	6,710	3,073	3,637	2,984	6,364	2,895	3,469	15.4%	346	5.4%	6.1%	4.8%
第四	0.90	3,330.0	1,500	2,997	1,363	1,634	1,294	2,803	1,283	1,520	15.9%	194	6.9%	6.2%	7.5%
第五	1.48	3,332.4	2,886	4,932	2,588	2,344	2,692	4,820	2,509	2,311	7.2%	112	2.3%	3.1%	1.4%
芹田	6.79	4,431.5	15,247	30,090	15,606	14,484	13,799	28,896	14,908	13,988	10.5%	1,194	4.1%	4.7%	3.5%
古牧	6.61	4,061.4	11,670	26,846	13,260	13,586	10,841	26,265	12,972	13,293	7.6%	581	2.2%	2.2%	2.2%
三輪	2.62	6,181.7	8,017	16,196	7,539	8,657	7,699	16,750	7,732	9,018	4.1%	△ 554	△ 3.3%	△ 2.5%	△ 4.0%
吉田	3.38	4,963.9	7,237	16,778	7,979	8,799	6,908	16,762	7,935	8,827	4.8%	16	0.1%	0.6%	△ 0.3%
古里	5.67	2,376.7	5,277	13,476	6,489	6,987	5,161	13,543	6,524	7,019	2.2%	△ 67	△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
柳原	3.72	1,792.7	2,686	6,669	3,186	3,483	2,636	6,872	3,309	3,563	1.9%	△ 203	△ 3.0%	△ 3.7%	△ 2.2%
浅川	24.77	253.2	2,436	6,271	2,955	3,316	2,462	6,525	3,105	3,420	△ 1.1%	△ 254	△ 3.9%	△ 4.8%	△ 3.0%
大豆島	4.83	2,632.7	5,135	12,716	6,258	6,458	4,512	12,023	5,904	6,119	13.8%	693	5.8%	6.0%	5.5%
朝陽	6.60	2,280.0	6,026	15,048	7,305	7,743	5,659	14,828	7,170	7,658	6.5%	220	1.5%	1.9%	1.1%
若槻	12.68	1,607.4	7,842	20,382	9,911	10,471	7,358	20,194	9,723	10,471	6.6%	188	0.9%	1.9%	0.0%
長沼	6.17	211.2	459	1,303	640	663	743	2,303	1,088	1,215	△ 38.2%	△ 1,000	△ 43.4%	△ 41.2%	△ 45.4%
安茂里	13.91	1,467.8	8,894	20,417	9,883	10,534	8,876	21,503	10,317	11,186	0.2%	△ 1,086	△ 5.1%	△ 4.2%	△ 5.8%
小田切	18.42	41.9	377	771	392	379	405	902	454	448	△ 6.9%	△ 131	△ 14.5%	△ 13.7%	△ 15.4%
芋井	32.62	64.3	893	2,096	1,018	1,078	907	2,314	1,136	1,178	△ 1.5%	△ 218	△ 9.4%	△ 10.4%	△ 8.5%
篠ノ井管内	46.65	874.2	15,487	40,781	19,567	21,214	15,040	41,340	19,791	21,549	3.0%	△ 559	△ 1.4%	△ 1.1%	△ 1.6%
篠ノ井	6.62	3,088.8	8,055	20,448	9,878	10,570	7,547	20,110	9,694	10,416	6.7%	338	1.7%	1.9%	1.5%
塩崎	8.18	634.7	1,952	5,192	2,519	2,673	1,952	5,448	2,597	2,851	0.0%	△ 256	△ 4.7%	△ 3.0%	△ 6.2%
共和	8.98	393.2	1,217	3,531	1,663	1,868	1,200	3,734	1,741	1,993	1.4%	△ 203	△ 5.4%	△ 4.5%	△ 6.3%
川柳	3.93	990.1	1,481	3,891	1,780	2,111	1,508	4,198	1,959	2,239	△ 1.8%	△ 307	△ 7.3%	△ 9.1%	△ 5.7%
東福寺	4.30	767.4	1,278	3,300	1,604	1,696	1,388	3,477	1,702	1,775	△ 7.9%	△ 177	△ 5.1%	△ 5.8%	△ 4.5%
西寺尾	1.22	2,736.9	1,083	3,339	1,620	1,719	999	3,140	1,506	1,634	8.4%	199	6.3%	7.6%	5.2%
信里	13.42	80.5	421	1,080	503	577	446	1,233	592	641	△ 5.6%	△ 153	△ 12.4%	△ 15.0%	△ 10.0%
松代管内	61.01	263.5	6,080	16,074	7,764	8,310	6,184	17,100	8,326	8,774	△ 1.7%	△ 1,026	△ 6.0%	△ 6.7%	△ 5.3%
松代	1.56	3,093.6	1,864	4,826	2,258	2,568	1,832	4,911	2,355	2,556	1.7%	△ 85	△ 1.7%	△ 4.1%	0.5%
清野	5.58	211.6	462	1,181	569	612	487	1,372	657	715	△ 5.1%	△ 191	△ 13.9%	△ 13.4%	△ 14.4%
西条	12.46	124.4	667	1,550	788	762	730	1,736	893	843	△ 8.6%	△ 186	△ 10.7%	△ 11.8%	△ 9.6%
豊栄	21.59	65.1	528	1,406	704	702	532	1,512	763	749	△ 0.8%	△ 106	△ 7.0%	△ 7.7%	△ 6.3%
東条	8.18	460.0	1,416	3,763	1,828	1,935	1,434	4,070	1,981	2,089	△ 1.3%	△ 307	△ 7.5%	△ 7.7%	△ 7.4%
寺尾	10.53	265.3	968	2,794	1,383	1,411	973	2,887	1,417	1,470	△ 0.5%	△ 93	△ 3.2%	△ 2.4%	△ 4.0%
西寺尾	1.11	499.1	175	554	234	320	196	612	260	352	△ 10.7%	△ 58	△ 9.5%	△ 10.0%	△ 9.1%
若穂管内	56.29	204.9	4,013	11,535	5,613	5,922	3,950	12,201	5,941	6,260	1.6%	△ 666	△ 5.5%	△ 5.5%	△ 5.4%
穂内	15.17	395.8	2,093	6,005	2,900	3,105	2,014	6,241	3,046	3,195	3.9%	△ 236	△ 3.8%	△ 4.8%	△ 2.8%
川田	7.33	380.8	910	2,791	1,364	1,427	892	2,908	1,399	1,509	2.0%	△ 117	△ 4.0%	△ 2.5%	△ 5.4%
保科	33.79	81.1	1,010	2,739	1,349	1,390	1,044	3,052	1,496	1,556	△ 3.3%	△ 313	△ 10.3%	△ 9.8%	△ 10.7%
川中島管内	10.44	2,593.9	10,612	27,080	13,101	13,979	10,002	26,881	12,908	13,973	6.1%	199	0.7%	1.5%	0.0%
中津	3.09	3,549.2	4,473	10,967	5,336	5,631	4,129	10,660	5,146	5,514	8.3%	307	2.9%	3.7%	2.1%
御厨	2.65	1,693.6	1,719	4,488	2,151	2,337	1,660	4,635	2,231	2,404	3.6%	△ 147	△ 3.2%	△ 3.6%	△ 2.8%
川中島	4.70	2,473.4	4,420	11,625	5,614	6,011	4,213	11,586	5,531	6,055	4.9%	39	0.3%	1.5%	△ 0.7%
更北管内	17.27	1,966.5	13,612	33,961	16,786	17,175	12,680	33,486	16,410	17,076	7.4%	475	1.4%	2.3%	0.6%
青木島	5.61	2,940.1	6,966	16,494	8,231	8,263	6,526	16,161	7,974	8,187	6.7%	333	2.1%	3.2%	0.9%
真島	4.69	509.4	840	2,389	1,162	1,227	798	2,459	1,184	1,275	5.3%	△ 70	△ 2.8%	△ 1.9%	△ 3.8%
小島田	2.79	886.4	738	2,473	1,128	1,345	714	2,506	1,158	1,348	3.4%	△ 33	△ 1.3%	△ 2.6%	△ 0.2%
稲里	4.18	3,015.6	5,068	12,605	6,265	6,340	4,642	12,360	6,094	6,266	9.2%	245	2.0%	2.8%	1.2%
七二会管内	16.40	85.9	589	1,408	658	750	638	1,622	748	874	△ 7.7%	△ 214	△ 13.2%	△ 12.0%	△ 14.2%
信更管内	35.84	49.3	783	1,767	879	888	833	2,051	1,009	1,042	△ 6.0%	△ 284	△ 13.8%	△ 12.9%	△ 14.8%
信田	22.29	43.7	416	973	482	491	447	1,148	567	581	△ 6.9%	△ 175	△ 15.2%	△ 15.0%	△ 15.5%
更府	13.55	58.6	367	794	397	397	386	903	442	461	△ 4.9%	△ 109	△ 12.1%	△ 10.2%	△ 13.9%
豊野管内	19.90	441.7	3,031	8,790	4,217	4,573	3,185	9,609	4,592	5,017	△ 4.8%	△ 819	△ 8.5%	△ 8.2%	△ 8.8%
戸隠管内	132.76	23.0	1,267	3,055	1,497	1,558	1,375	3,499	1,715	1,784	△ 7.9%	△ 444	△ 12.7%	△ 12.7%	△ 12.7%
鬼無里管内	127.96	8.8	546	1,128	524	604	645	1,393	651	742	△ 15.3%	△ 265	△ 19.0%	△ 19.5%	△ 18.6%
大岡管内	45.86	17.9	428	823	408	415	473	960	471	489	△ 9.5%	△ 137	△ 14.3%	△ 13.4%	△ 15.1%
信州新町管内	70.73	50.0	1,543	3,540	1,694	1,846	1,719	4,135	1,956	2,179	△ 10.2%	△ 595	△ 14.4%	△ 13.4%	△ 15.3%
中条管内	33.29	48.2	698	1,605	729	876	788	1,917	892	1,025	△ 11.4%	△ 312	△ 16.3%	△ 18.3%	△ 14.5%

※集計上の地区区分と行政区とは一致しないことがあります。

※総数面積のみ、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。そのため、各地区の合計と一致しません。

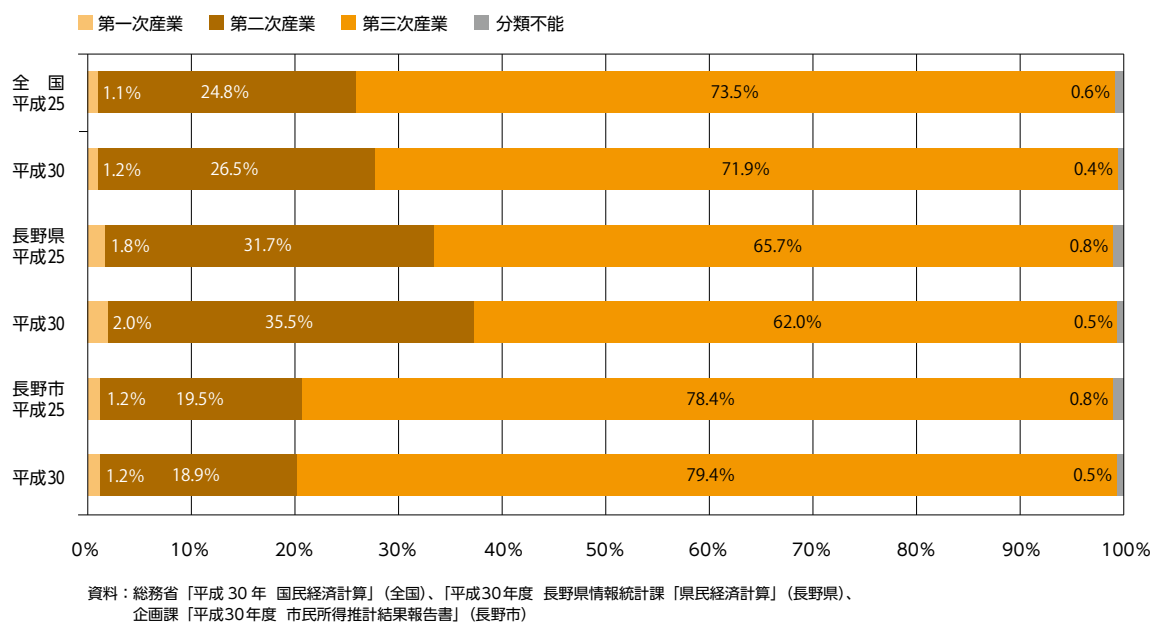
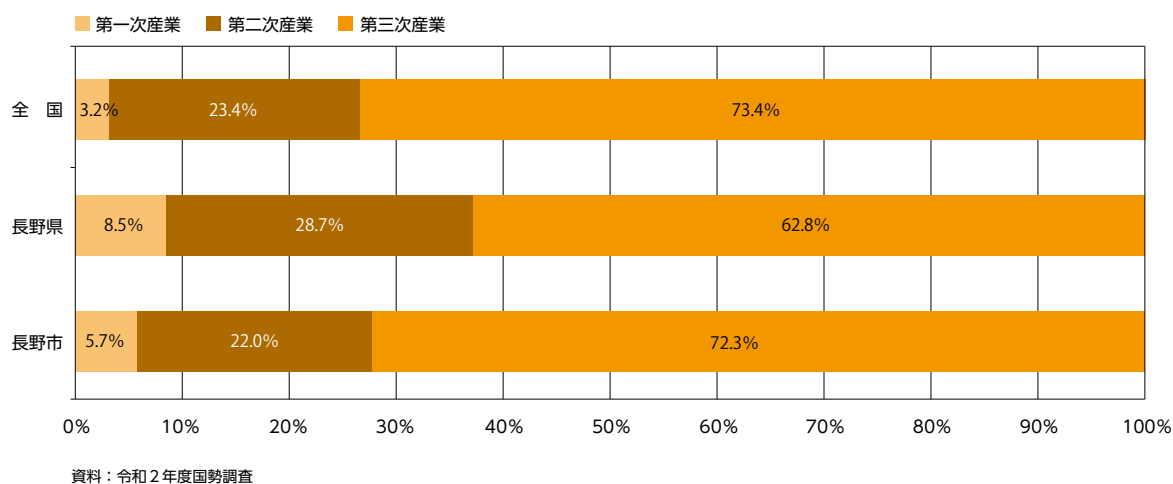
資料：令和2年度国勢調査

(3) 産 業

ア 産業別就業者数

本市の第二次産業としては、食料品、出版・印刷、電子デバイス・情報通信機器関連などを中心に発展を続けてきたが、国際的な競争力が求められるにつれ、第三次産業が約7割を占める状況へと変化している。

■ 総生産の産業別構成比



イ 観 光

善光寺とその門前町は、古くから信仰の中心として全国の人々に親しまれ、周辺に広がる宿坊、仲見世などが観光の中心としてにぎわいをみせている。とりわけ、数え年で7年に一度開催される善光寺御開帳の年は、例年に比べて飛躍的に観光客が増加する。真田十万石の城下町である松代地区には、当時の面影を残した歴史的建造物が多く

残っている。これらの地域の観光資源を住民自らが守り育てる市民が主役の町おこし文化活動として「エコール・ド・まつしろ」に取り組んでおり、様々な団体がそれぞれの活動の中で、訪れる観光客をもてなしている。

戸隠、鬼無里をはじめとした地区では、豊かな自然環境の中に、古くから伝わる様々な歴史、文化、芸能があり、秘められた観光資源が残されている。

本市の観光地利用者数は、令和2年(2020)からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、海外からの渡航や国内の往来が制限や自粛されたことから、落ち込んでいる。

■ 観光地利用者状況の推移

(単位: 人)

年度	総数	観光地別利用者数						
		善光寺	飯綱高原	松代	象山地下壕 (松代の内数)	川中島	篠ノ井	エムウェーブ
20	10,282,900	6,599,300	822,500	539,400	102,802	179,300	283,100	377,300
*21	15,468,400	11,568,600	797,200	601,800	107,868	239,200	348,100	413,800
22	10,049,800	6,061,300	844,000	606,300	102,691	196,900	323,800	381,000
23	10,034,700	6,123,700	805,800	542,300	99,656	279,200	353,100	290,100
24	10,071,600	6,402,400	835,000	518,400	105,083	301,600	351,600	—
25	10,075,100	6,334,900	977,300	528,200	97,488	246,400	362,600	—
26	9,860,100	6,255,100	896,500	499,000	65,885	255,800	318,100	—
*27	17,008,400	12,288,800	1,200,200	776,000	86,356	320,300	359,900	—
28	11,090,300	6,419,100	1,040,500	1,031,000	83,296	298,100	308,800	—
29	11,008,200	6,652,600	1,214,400	659,000	62,344	352,900	257,900	—
30	10,727,000	6,354,000	1,231,300	591,800	55,866	288,700	283,900	—
令和元	10,382,200	6,301,700	1,390,000	384,300	50,011	288,700	279,800	—
2	4,484,800	2,593,600	54,800	219,000	25,516	115,200	245,700	—
3	5,282,600	3,147,500	73,500	263,500	29,749	171,500	306,600	—
*4	13,348,500	10,207,800	240,200	484,800	40,048	284,000	268,600	—

年度	観光地別利用者数					
	戸隠高原	鬼無里	聖山高原	豊野	信州新町	中条
20	1,074,400	127,200	33,100	138,600	89,800	18,900
*21	1,069,100	143,300	42,100	135,800	91,800	17,600
22	1,216,000	130,900	43,000	121,200	109,700	15,700
23	1,226,200	123,300	39,500	108,100	125,300	18,100
24	1,202,000	108,800	41,200	99,500	167,500	43,600
25	1,163,200	108,200	39,000	106,500	160,500	48,300
26	1,197,100	79,100	38,700	109,300	161,000	50,400
*27	1,613,000	99,800	39,600	102,400	157,900	50,500
28	1,587,000	62,300	36,200	102,500	157,000	47,800
29	1,496,100	65,500	38,500	100,100	154,800	43,400
30	1,578,000	75,200	36,500	95,800	149,500	42,300
令和元	1,371,000	68,400	36,400	72,400	152,300	37,200
2	1,023,000	32,700	24,900	55,900	94,300	25,700
3	1,060,300	40,900	22,500	74,400	91,400	30,500
*4	1,519,800	49,100	31,000	91,000	136,900	35,300

注1 「年度」欄の*印は善光寺御開帳の開催年

注2 平成24年度から「観光地点の名称変更と削除」並びに「算出基準の変更」を行っている。

資料：令和5年度長野市の観光概要

ウ 土地利用

人口減少の進行など社会情勢の変化による中心市街地の空洞化の進行、低・未利用地や空き家の増加などから都市的土地利用(住宅地、工業用地、店舗等)の需要が減少している。また、農業の担い手不足による荒廃農地の増加、木材価格の低迷等に伴い、適切な施業がされない森林が増加していることなどから、農林業的土地利用の需要も減少している。

■ 土地利用の状況

土地の利用区別面積(令和3年(2021)4月現在)

土地の利用区分	面積 (ha)	構成比 (%)
農地	8,010	10
田	2,260	/
畑	5,750	
森林	53,468	64
原野等(原野・採草放牧地)	852	1
水面・河川・水路	2,922	3
道路	3,745	4
住宅	6,503	8
住宅地	4,461	/
工業用地	192	
その他の宅地	1,850	
その他	7,981	10
市全体	83,481	100

関係法令に基づく計画区域面積(令和3年(2021)4月現在)

関係法令の名称	計画区域の名称	計画区域面積 (ha)	
都市計画法	都市計画区域	21,541	市域の約 26%
農業振興地域の整備に関する法律	農業振興地域	43,536	市域の約 52%
森林法	地域森林計画対象 民有林	41,445	市域の約 50%
自然公園法	国立公園区域	10,204	市域の約 12%

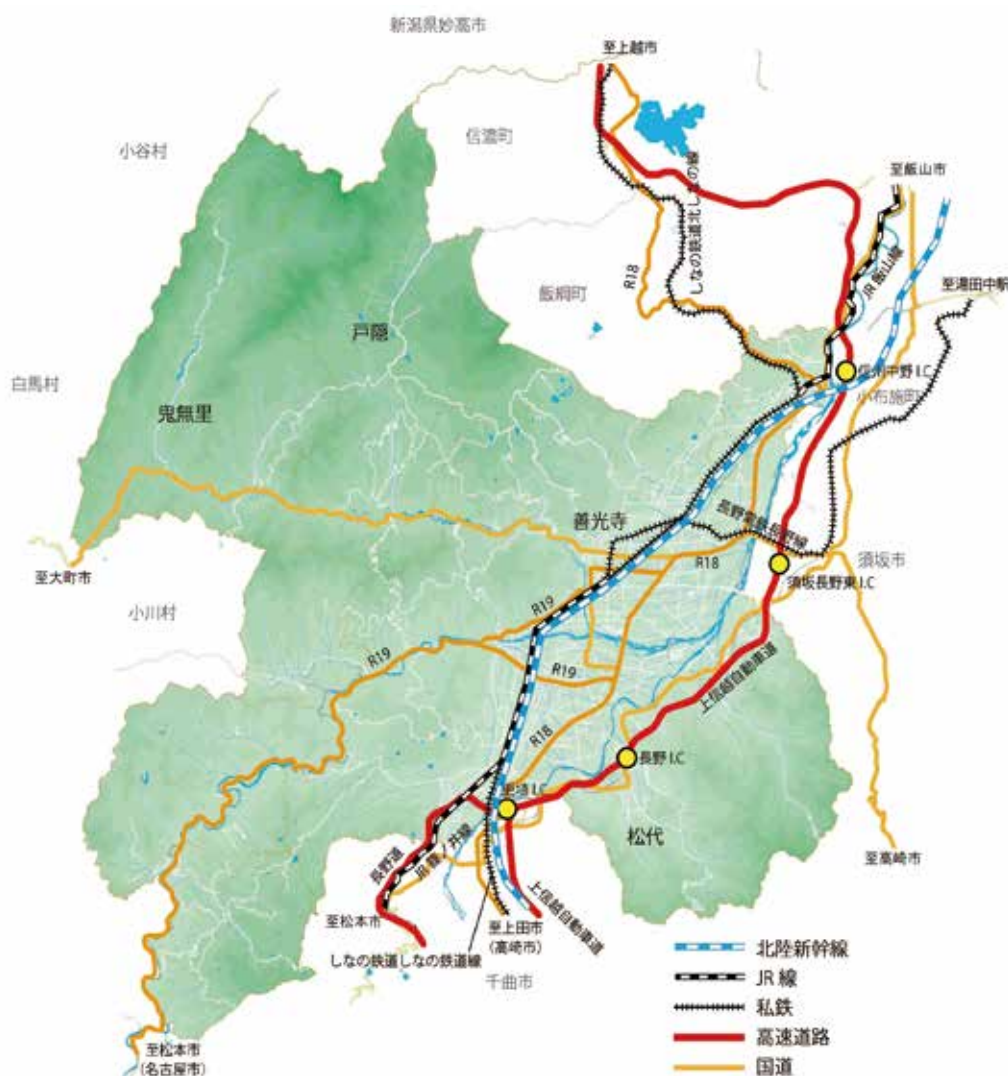
工 交 通

本市は、明治4年(1872)以来、長野県の県庁所在地として発展を遂げ、官庁、金融機関、事業所などの都市機能の集積に伴い、活発な人的交流と情報が集中する中核都市として発展してきた。

善光寺門前に位置する長野市の中心市街地を中心に、道路と鉄道が整備されている。道路は、本市から名古屋市へ伸びる国道19号と群馬県高崎市と新潟県上越市を結ぶ国道18号が交わる交通の結節点となっている。市南部の松代地区には、東西に上信越自動車道が通っており、長野ICと市街地は国道18号と主要県道で接続されている。

鉄道は、平成9年(1997)10月に東京から長野間の長野新幹線が開通し、首都圏から訪れる観光客の利便性が向上した。長野新幹線は、平成27年(2015)に金沢駅まで延伸したことで北陸方面からの観光客の利便性が向上し、名称が北陸新幹線に改められた。

在来線は、飯山につながるJR飯山線、松本につながるJR篠ノ井線、軽井沢町につながるしなの鉄道しなの鉄道線、上越市につながるしなの鉄道北しなの線があり、須坂、小布施、中野を經由して山ノ内につながる長野電鉄長野線がある。



3 ◆ 歴史的環境

(1) 旧石器時代～弥生時代

ア 長野盆地の黎明

本市の東部、西部の山地に10か所の後期旧石器の遺跡があり、飯綱高原の上ヶ屋遺跡では多様な石器がみられ、地域交流の様子がうかがえる。

縄文時代、後氷期の気候変動で豊かな落葉広葉樹林の森ができ、食糧になる堅果類が豊富になった。シカ、イノシシなどの中小型動物が繁殖し、千曲川とその支流は、回帰するシロザケ、サクラマスと淡水魚の宝庫であり、重要な食糧源となった。

市南部の若穂保科の宮崎遺跡からは、シカの角製の銚もりやサメの椎骨を利用した耳飾りが出土している。この頃の平地は、河川の流路が頻繁に変わる氾濫原であり、常住が難しい場所であったが、千曲川河岸の地下4メートルから縄文時代前期の集落が発見されており、縄文人が山地から長野盆地の中州や自然堤防、扇状地に進出したことが確認されている。



宮崎遺跡出土の耳飾り

イ 赤い土器のクニ

平地での水田耕作は、弥生時代中期後半に本格化し、千曲川の自然堤防上に集落を構え、後背湿地に水田を作る現在につながる原風景が成立した。稲作農耕は、社会の仕組みを大きく変えてムラ同士の抗争も生まれた。市東南部の松代地区にある松原遺跡は、ムラの周りに防御用の大きな溝を巡らせた環濠集落であり、覇権をめぐる抗争があったことを示している。

本市の弥生後期を特色づける土器は、出土地の箱清水にちなみ箱清水式土器と呼ばれている。これは、壺、鉢、高坏型土器の表面をベンガラで塗る赤い土器で、千曲川、犀川流域に広く分布し、地域色の強い赤い土器のクニと呼ばれる文化圏を形成していたと考えられている。



松原遺跡出土の磨製石戈

(2) 古墳時代～平安時代

ア 巨大古墳と積石塚古墳

古墳時代の前期末頃には、近畿の大型前方後円墳と同じ造りの大型の前方後円墳が市域でも築造された。その代表的な例は、篠ノ井の川柳^{せんりゅう}將軍塚古墳であり、この地域を治める王が代々存在し、大和政権とのつながりを示す緩やかな政治圏が広く形成されていたことを示唆している。

古墳時代中期前半になると、大型前方後円墳をつくった地域王権から独立した中小豪族の古墳が千曲川流域の各地に造られた。これらの特色は、血縁関係者に継承される古墳が継続的に複数造られ、古墳群を形成したことにある。千曲川右岸の松代地域には積石塚^{つみいしづか}と合掌形石室^{がっしょうがたせきしつ}を特徴とする総数500基余の大室古墳群がある。



川柳^{せんりゅう}將軍塚古墳出土の装飾品



大室168号墳(合掌形石室^{がっしょうがたせきしつ})

イ シナノから信濃国へ

大化の改新(645年～650年)以降の律令制の下、天武・持統朝に全国を60余の国に分ける政策によって、シナノは科野国として成立した。科野国は、また、律令制で定められた五畿七道のうち東山道に区分され、越の蝦夷^{えみし}に備えるための前線に位置していた。そのため科野国は、ヤマト王権にとって重要な地として、天武朝には科野への遷都計画がたてられ、天候不順が長く続いた持統天皇5年(691)に、須波神と水内の神に勅使を派遣させた記録が残されている。

東山道は、畿内から陸奥国に至る東山道の諸国国府を結ぶ政治的、軍事的な道の呼称であるとともに、当時の行政区画のひとつでもあった。市内には北陸道へつながる東山道の支道が確認されているが、これも当時朝廷と対立していた蝦夷^{えみし}対策の道とも指摘されている。

その後、和銅6年(713)に出された諸国の国名を縁起の良い二文字に改めさせる令により、国名が信濃へと変更された。国の下には郡が置かれ、信濃には10の郡が置かれた。そのうち北信濃には水内郡、埴科郡、更級郡、高井郡の4郡が置かれた。律令制以前、国造としてシナノ国を治めていたシナノ国造は、律令制下では金刺舎人や他田舎人と名乗り、郡司層として在地支配を担った。

ウ 中世への胎動

8世紀から9世紀には、天候不順や自然災害が多く記録されるようになり、近年の発掘調査でもその痕跡が確認されている。この時期は、相続く災害により古代の水田が荒廃し、人々も逃散するなど律令制下の既存の権力が揺らぐ一方で、その混乱の中で富を蓄積した有力者が現れた時期である。

この頃、長野盆地で進められた条里水田の再開発などは、台頭してきた富裕者層や郡司を国衙が組織して進めた事業であったと考えられる。篠ノ井東福寺、川中島御厨の南宮遺跡は、当時勢力を持ちつつあった有力者を中心とする集落であった。

11世紀頃になると全国的に摂関家藤原氏へ開発した土地を寄進し、その土地の支配権を認めてもらう寄進地系荘園が増加し、市内にも、千田荘、英多荘、芋河荘、太田荘などが成立した。



平安時代集落の南宮遺跡調査
(平成3年(1991))

エ 古代の長野盆地の寺社

若穂保科の清水寺、稲葉の観音寺、安茂里の正覚院、稲葉の地藏院、千曲市の観龍寺、智識寺などには、平安時代の観音像が残されている。これらは、当時、市内に存在していた荘園とのつながりによるものと想定され、長野盆地でも全国的な観音信仰の広がりとともに霊場が形成されたことがうかがえる。

これらは当時市域に存在していた荘園の開発に伴い、その中心をなした人々によって勧進されたものと想定され、全国的な観音信仰の広がりの中で長野盆地においてもその影響を受けたことがうかがえる。10世紀後半以降は末法思想の影響で豊野町の鷲寺や篠ノ井の長谷寺などで経塚が作られるなど、北信濃一帯に観音信仰や末法思想が広がっていった。



北信濃の古代観音像・経塚及び寺社分布図
(長野市立博物館2003から)

本市の代表的な寺社である善光寺と戸隠神社(明治元年(1868)まで戸隠山頭光寺)の

名が文献に現れるようになるのは、平安時代に入ってからである。善光寺は、10世紀に成立した『僧妙達蘇生注記』^{そうみょうたつ そせいしゅうき}が初出とされる。戸隠山は、平安初期に山岳密教の靈山として注目され、文献では11世紀初め、歌人の能因法師がまとめた『能因歌枕』^{のういんうたまくら}に信濃の歌枕の一つとして「とがくし」があげられており、この頃から、その存在が中央にも認知されていたことがわかる。

オ 横田河原の戦い

平安時代末頃には、荘園の荘官の中から武力によって勢力を伸ばす者が現れ、互いの勢力の伸長を巡って戦さが繰り返されるようになっていった。そうした時代にあつて、武力で藤原氏に代わったのが平氏であった。

信濃国も平家方の武士が有力であったが、治承4年(1180)9月、平家追討のために、木曾義仲が挙兵し、京を目指して北上した。義仲は挙兵後、すぐに市原合戦(善光寺合戦)で平家方の笠原頼直を討ち、翌年の養和元年(1181)6月に越後の城助茂(長茂)を篠ノ井横田の地で破った(横田河原の戦い)。

(3) 鎌倉時代～戦国時代

ア 善光寺門前町の成立と発展

善光寺は、治承3年(1179)に焼失したが、源平合戦に勝利した源頼朝の命によって12年後の建久2年(1191)に再建された。鎌倉幕府の主導による善光寺再建は、有力御家人を檀那とした新善光寺の建立や善光寺仏の模造の流行を呼び、鎌倉時代後期になると善光寺信仰は全国各地へ広がった。

それに伴い、善光寺への参詣路も整備され、鎌倉時代後半に成立し、時宗の教えを広めた『一遍聖絵』^{いっぺんひじり え}(正安元年(1299))に、三国伝来の如来信仰の聖地として当時の善光寺や門前の賑わいをみることができる。

この時代に善光寺に参詣したことが記録からわかる人物には、源頼朝をはじめとして一遍、久我雅忠の娘二条、他阿真教などがおり、伝承として、親鸞の名も伝えられている。

イ 戦乱の時代

鎌倉幕府が滅亡すると、北条高時の遺児、北条時行が諏訪氏を頼って挙兵し、八幡河原、篠井河原、四宮河原で信濃守護小笠原貞宗方と戦った(中先代の乱)。

室町時代になると、信濃国守護に任じられた小笠原長秀に在地の国人領主が反発し、応永7年(1400)には、信濃国に入国した小笠原長秀に対して東北信地方の国人領主た

ちが一揆を結んで反抗し、篠ノ井塩崎・二ツ柳周辺を戦場に長秀軍を敗退させる大塔合戦が起こっている。

戦国時代になると、北信濃は領地争奪の場となった。特に、武田と上杉による川中島の合戦は、北信濃一帯で複数回にわたって戦いが繰り広げられたとされる。この合戦により、善光寺の本尊や仏具そして衆徒までもが、武田・上杉両軍によって持ち去られ、門前町が衰退するなどこの地に大きな影響を及ぼした。善光寺如来は、弘治元年(1555)に武田方によって善光寺から移され、以来慶長3年(1598)に豊臣秀吉の命によって京都方広寺から善光寺に戻されるまでの約40数年間、そのときどきの権力者の意向によって各地への流転を余儀なくされた。

なお、川中島の合戦の際、武田方の拠点として松代に造られた海津城、のちの松代城は、江戸時代に入ると川中島四郡(高井郡、水内郡、更級郡、埴科郡)を治める信濃国最大の領国の中核として発展していった。

(4) 江戸時代

ア 交通運輸

江戸時代になると主要五街道に次ぐ脇街道として、北国街道が整備された。北国街道は、追分宿(軽井沢町)で中山道から分岐し、矢代宿(千曲市)を過ぎて二つに分かれる。一つは、丹波島宿から善光寺宿を経て牟礼宿(飯綱町)に至るルートで、もう一つは、松代城下町を通り、福島宿(須坂市)から長沼宿を経て牟礼宿に



江戸時代の北信濃の街道

向かうルートであった。長沼城と松代城を結ぶ後者は、戦国時代から江戸時代初期までにおける主要ルートであったが、次第に善光寺町を通るルートが主となっていき、松代道は、犀川の洪水による舟留めの際の迂回路として利用されるようになった。

北国街道の発展は、それに接続する大笹街道や三原道、峰街道といった脇往還の発展も促した。また、江戸時代後半には、千曲川や犀川で舟運が開通し、陸上交通とともに江戸時代の物流の一翼を担った。

一方、江戸時代に山中と呼ばれた市西部の中山間地域は、麻や和紙などの産地であったため、流通の拠点として、慶長12年(1607)に新町(長野市信州新町)に九齋市くさいいちが、天和3年(1633)には鬼無里ろくさいいちに六齋市の開設が許可され、物産が集積して流通の要所とし

て栄えた。

新町は、松本と善光寺を結ぶ主要地となり、犀川に架かる久米路橋は、松本藩領へと続く主要な道として口留番所が置かれた。幕末には、松代から新町までの間の犀川通船が開設されて物流の大動脈となった。

鬼無里は、松代、戸隠、高府、安曇野に通じる道の分岐点にあったことから市が立ち、ここで主に麻、楮、和紙が取り扱われた。白馬から善光寺へ向かう道沿いに建つ鬼無里土倉の文殊堂の内陣には、幕末から明治にかけて、この道を行き交った人々の落書きが残り、往時の賑わいの一端をうかがうことができる。

イ 真田十万石の城下町松代

江戸時代の市域は、松代藩領が大半を占め、そこに善光寺や戸隠山といった寺社領、幕府領、飯山藩領、須坂藩領、上田藩領、塩崎知行所などが所在した。

信濃国の中で最も規模が大きかった松代藩の政庁である松代城は、川中島の戦いの際、武田信玄が築いた海津城がそのはじまりとされる。その後、領主の移り変わりとともに、城将、城代などが入れ替わり、それに伴い城下町も整備され、松代城は、北信濃支配の拠点として重要な役割を担うようになっていった。

元和8年(1622)に真田信之が、上田から松代へ移封され、松代藩真田家の初代藩主となると、既に形作られつつあった松代城下町に上田から真田家ゆかりの寺社を移して城下に組み込み、町を再編成していった。以降、真田家は、明治の廃藩まで10代、約250年にわたり松代藩主をつとめた。

真田家は、代々学芸を好み、領民を感化した。そうした気風によって、松代から幕末明治初期、時代をリードした佐久間象山や長谷川昭道ら多才な人物が輩出された。

ウ 善光寺の再建と善光寺町の繁栄

川中島の合戦で善光寺如来が持ち去られてから、善光寺の門前町も衰退した。再び善光寺に善光寺如来が戻されたのは、40余年後の慶長3年(1598)である。その後、江戸幕府開府に伴い、徳川家康から寺領千石の寄進を受け、次第に復興を遂げたものの、幾度か本堂が火災で焼失するなどの災難が重なった。

このような中で、元禄5年(1692)に本格的な本堂再建計画が始まり、資金を調達するため三都で出開帳を催した。工事に際しては、本堂が類焼しないように門前町から北へ移すこととし、新敷地を造成したが、元禄13年(1700)に町家から類焼し、建築中の本堂も集積した用材とともに灰燼かいじんに帰した。

これを受けて江戸幕府は再建を援助するために、善光寺に前立本尊が全国を回る回国開帳を許可し、松代藩に造営奉行を用命した。5年に及ぶ出開帳は成功して宝永4年

(1707)に本堂が落成し、また、善光寺の信仰を全国に広めることにもなった。

回国開帳を契機に参詣者が増大すると、信濃へ入る道は全て善光寺道と呼ばれ、路傍には善光寺を指し示す道標が建てられた。善光寺の各院坊では信者を宿泊させ、世話をするとともに、全国各地に善光寺講が組織されて門前は全国から来訪する参詣客を迎えることで繁栄した。



善光寺宿
 (『善光寺道名所図会』(嘉永2年(1849)))

全国を巡る回国開帳はこれを契機として、延享4年(1747)～寛延元年(1748)、安永9年(1780)～天明2年(1782)、寛政6年(1794)～寛政10年(1798)の4回行われ、これらの出開帳で得られた資金を基に境内の整備が進められた。

エ 戸隠神社と戸隠信仰

嘉祥2年(849)に学問行者によって開山されたとされる顕光寺(現在の戸隠神社)は、本院、中院、宝光院からなる天台宗の寺院で、江戸時代以前から多くの修験僧が修行に訪れる山岳信仰の聖地として栄えた。江戸時代に入ると戸隠の地主神とされていた九頭龍権現が、農業神として庶民の信仰を集め、各院の宿坊では各地に代参講を組織し、参詣者を迎えて善光寺と同様に信者を宿泊させた。また、戸隠の御師が各地にある得意先の代参講に出向いて戸隠信仰を広めていった。

明治時代に入ると廃仏毀釈によって天台宗の僧は、還俗して神職となり、現在の奥社、中社、宝光社、九頭龍社、火之御子社の五社からなる神社組織に変わっていった。

オ 善光寺地震

江戸時代末の弘化4年(1847)3月に北信濃を襲ったマグニチュード7.4と推定される地震は、甚大な被害をもたらした。このとき善光寺では、御開帳が行われており、全国から多数の参詣客が集まっていた。参詣客も、地震によって倒壊する家屋の下敷きや各所で発生した火



「地震瓦版 信濃国大地震之事」(長野市立博物館所蔵)

災に巻き込まれ、数千人の犠牲者が出たとされている。また、この地震により信更村涌池にあった虚空蔵山が崩れて犀川を堰き止めて巨大なダム湖を作った。このダム湖は、地震発生から20日後に決壊し、川中島平一帯の人家を押し流す大洪水をひき起こした。洪水による犠牲者供養の石碑や洪水の痕跡を今も見ることができ、災害の規模の大きさを物語っている。

(5) 明治時代～昭和20年(1945)

ア 長野の近代化

明治4年(1871)6月、中野県庁を善光寺町に移して長野県と改称する太政官布告が発せられ、7月に仮庁舎で執務を開始した。同月、廃藩置県によって松代藩は松代県となるが、11月に東北信6郡の7県すべてが長野県に編入された。その後、明治9年(1876)には筑摩県を廃し、中南信4郡を合併して旧信濃国10郡すべてが長野県となった。

善光寺が所在する長野村は、県都として市街の近代化が急速に進められた。明治7年(1874)に長野町となり、明治22年(1889)の町村制施行で周辺3町1村を合併し、明治30年(1897)には県下最初の市制を施行して長野市となった。

明治21年(1888)に鉄道が開通すると、それまでの貨物輸送量が急速に増加し、商品流通が活発となり、商工業が発展して近代的市街地が形成された。大規模敷地を要する官庁や文教施設が市街地縁辺部に設置され、市街地との連絡道路が建設されることで、新しい町が生まれて市街地が拡大していった。大正12年(1923)には、三輪村、芹田村、吉田町、古牧村を編入合併して市域がさらに広がった。

イ 製糸業の隆盛と衰退

江戸時代には商品作物として飼われていた蚕であったが、近代に入って日本の生糸が海外で好評を博すと、国も富国策として繊維産業の発展に力を入れるようになったため、市内でも蚕を飼う養蚕農家が急増した。

そのような社会状況の中、明治7年(1874)には旧松代藩士大里忠一郎ら数名が、松代町西条に国内初の民間資本による器械製糸場を設立した(西条村製糸場、のちに六工



長野駅開業時の長野停車場(左側の平屋)
(扇屋引札の一部/長野市立博物館/明治時代中期)

社と改称)。六工社には、官営の富岡製糸場で工女として働き、蒸気器械製糸技術を学んだ和田(横田)英らの十数名も技術指導者として参画した。

昭和2年(1927)、ニューヨークのウォール街に端を発した世界恐慌の波は日本へも及び、昭和5年(1930)に主要輸出品だった生糸関連の価格が大暴落する昭和恐慌が始まった。ほとんどの農家が養蚕を行い、製糸工場で働いていた女工も多かった市内への影響は甚大であった。これに対し、市では失業救済事業として、大峰山麓の展望道路、市営球場、市営プールの修理増設などを行うなどの対策を講じた。

昭和7年(1932)に円相場が下落し、円安となると、日本は輸出を急増させたため紡績業などの景気が急速に回復したが、製糸工場は景気回復の波に乗りおくれ、少しずつ衰退していった。

ウ 太平洋戦争下の長野

昭和16年(1941)の真珠湾攻撃に始まる太平洋戦争は、年を追うごとに日本側の劣勢となっていた。

敗色が濃厚になる昭和19年(1944)になると、陸軍を中心に天皇と直属の最高作戦指導機関の大本営を東京から長野へ移す計画が立てられ、同年10月に松代の象山、舞鶴山、皆神山に巨大な地下壕を設ける移転工事が始まった。翌年8月15日、日本の降伏によって戦争が終結したため、工事は中止されたが、本体の8割ほどは完成していた。工事の主要な労働力は勤労働員、学徒動員、朝鮮労働者が担ったとされている。

昭和20年(1945)、アメリカ軍による本土爆撃も各地で激しさが増しており、本市では終戦日2日前の8月13日の午前6時50分頃から午後3時50分頃まで6回にわたって機銃掃射や爆撃があった。この空襲では長野飛行場、国鉄長野駅機関区などの軍事、公共施設のほか長野飛行場の近くにあった大豆島国民学校も攻撃の対象となった。このときの空襲による死者は47人とされている。



松代大本営関係施設
 (『松代大本営 歴史の証言』(平成9年(1997))から)

(6) 昭和20年(1945)～現在

ア 戦後の暮らし

太平洋戦争の間に生活基盤は壊滅的な打撃を受け、食料品をはじめ日常物資が不足したため、激しい物価高騰が起きて市民生活は大きな影響を受けた。このころ、本市では、食料以外に衣類など生活物資40品目ほどが配給対象となっていた。

昭和28年(1953)の町村合併促進法により、昭和29年(1954)に周辺の10村と合併し、その後、昭和41年(1966)に篠ノ井市、松代町、川中島町、若穂町、更北町、信更村、七二会村と合併し、市域が拡大した。

工業については、昭和29年(1954)に長野市工業振興条例を施行し、工業に育成と工場誘致がなされるようになった。高度成長期には、市域の拡大もあり、さらに工業が発展していった。

イ 自然災害

昭和40年(1965)から松代で微小の地震が日に何度も起きる群発地震が発生し、昭和44年(1969)に終息するまで地震総回数は64万8,000回を数えた。昭和60年(1985)には、地附山の南東斜面で大規模な地すべりが発生し、26人の犠牲者と多くの住宅被害を出した。

台風による犀川や千曲川の氾濫、堤防決壊は戦後何度も起こり、そのたびに農地や家屋が被害に遭った。特に、令和元年(2019)には長沼地区や豊野地区を中心にかつて例を見ないほどの多くの被害が発生した。住民の努力と多くのボランティアの尽力で復旧が進んでいる。



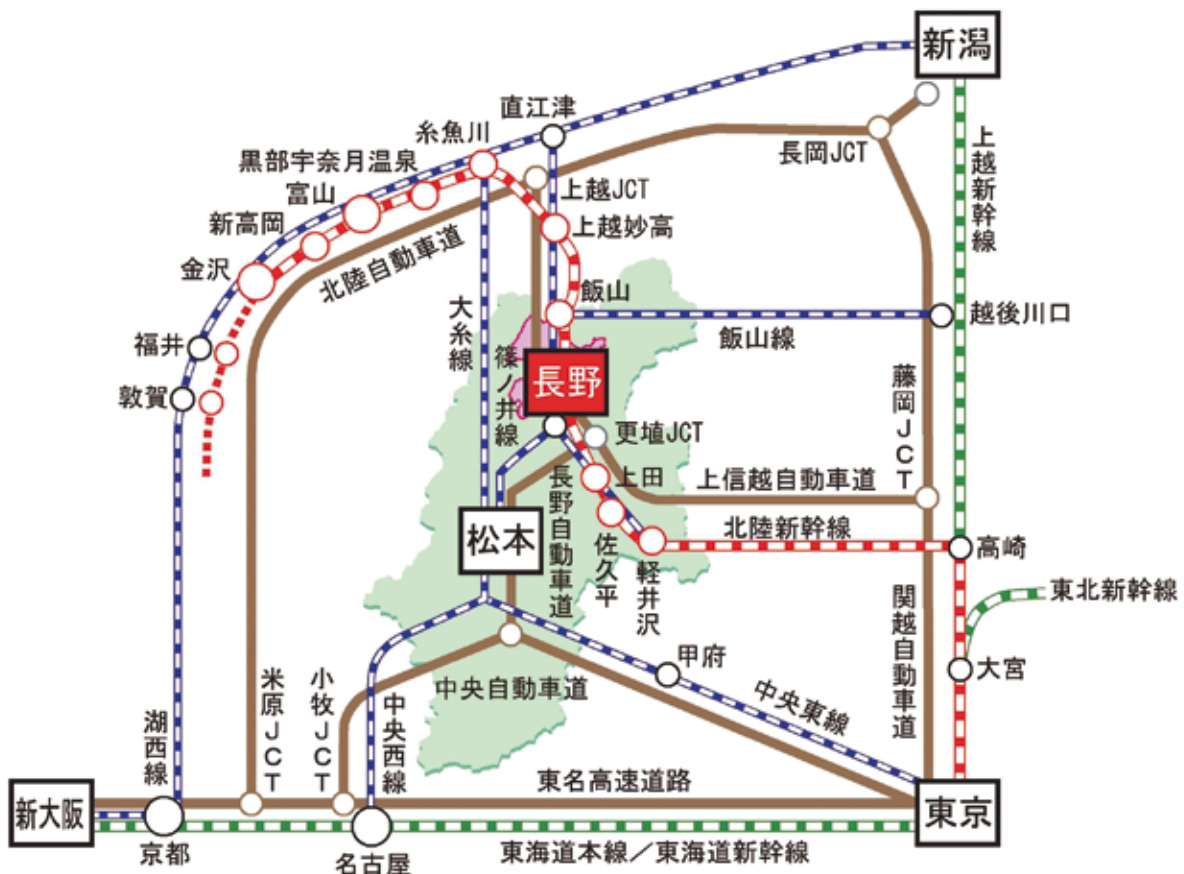
文化財レスキューの活動の様子

なお、流失した歴史資料等は、長野市立博物館の文化財レスキュー活動によって多くが修復したが、現在も修復活動が継続されている。

ウ 高速道路と新幹線の開通

昭和40年代からの自動車の普及に伴い、全国各地で自動車道の建設が行われるようになった。本市では、昭和48年(1973)に決定した岡谷市から長野市間の自動車道整備計画により、平成5年(1993)に長野自動車道と上信越自動車道が開通した。

新幹線は、昭和47年(1972)に北陸新幹線の基本計画が決定されていたが、平成3年(1991)に冬季オリンピックが平成10年(1998)に開催されることが決まったことが後押しとなり、平成9年(1997)に長野と東京の間を結ぶ長野新幹線が開業した。長野新幹線は、平成27年(2015)に金沢まで延伸し、名称が北陸新幹線に改められ、北陸方面から本市への交通アクセスが向上した。



本市へのアクセス

エ 冬季オリンピック・パラリンピックの開催

平成10年(1998)のオリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季競技大会は、本市を中心に5市町村(パラリンピックは4市町村)が会場となった。本市ではオリンピック・パラリンピックの開催により競技施設が充実するとともに、各国から来る人々との交流も盛んになった。特に、各国の選手と市内の小中学校が交流する一校一国運動は、後のオリンピック開催国に引き継がれて大きなレガシーとなった。

このような国際的なイベント開催を経た本市では、現在、国際会議観光都市として、様々なコンベンションが誘致され、開催されている。



表彰式会場のセントラルスクエアは、公園として利用されている。

(7) 長野市の歴史に関わる主な人物

さなだのぶゆき

真田信之 永禄9年(1566)~万治元年(1658) 武士・松代藩初代藩主

真田昌幸の長男として永禄9年(1566)に生まれた。父と共に上信両国に出陣し、真田の武功を誇った。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いにおいて、父昌幸、弟信繁(幸村)と袂を分けて、徳川方につき、家名を残すことに成功した。以後、慶長5年に上田城主、元和8年(1622)に松代城主となり、真田十万石の基礎を築いた。



墓は、松代町松代の長国寺と隠居所であった松代町柴の大鋒寺にあり、松代藩の藩祖として、松代町西条の白鳥神社に武靖大明神として祀られている。

つかだたいほう

塚田大峯 延享2年(1745)~天保3年(1832) 医師・儒学者

善光寺桜小路(現在の長野市大字長野桜枝町)の医者で、室鳩巢の門人でもあった塚田善助(旭嶺)の子。母千賀子は、松代藩士矢島氏の娘。名は虎、字は叔貔しゆくひ、通称は多門。はじめ父について学び、16歳で江戸に出て苦学し、漢学塾を開く。



寛政2年(1790)の寛政異学の禁のとき、これに反対し、市川鶴鳴、山本北山、亀田鵬斎、泉豊洲とともに五鬼と称される。文化8年(1811)、尾張藩儒、のち藩校明倫堂の督学となり、88歳で没するまで教壇に立った。

長兄の明は松代藩士の家を継ぎ、次兄道有は医者として小林一茶の『父の終焉日記』(文化3年(1806)~文化4年(1807)頃の作品とみられる)にも名が見える。末弟の慈延は、比叡山の僧となり、隠居後京都に住んで歌人として名をなし、澄月、小沢蘆庵、伴蒿蹊とともに、平安和歌四天王と称された。

もろなまる
茂呂何丸 宝暦11年(1761)~天保8年(1837) 俳人・俳学者

吉田村北本町(現在の長野市吉田3丁目)に小沢治郎右衛門の長男として生まれ、青年時代は書画を愛し、江戸、京都、大坂を往来し、古書画の売買を業としていた。寛政4年(1792)に俳諧の仲間入りをし、享和2年(1802)に重病を患い、剃髪して何丸と名を改める。



文政2年(1819)に江戸に出て蔵前の札差中村抱義の知遇を受け、俳諧宗匠として立つ。松尾芭蕉の研究で知られ、芭蕉七部集注釈事業に取り組み、『七部集大鏡』や『芭蕉翁句解参考』を著している。文政7年(1824)、京都二条家から俳諧奉行職御代官に任じられている。名は一元、通称治郎右衛門、別号に古連、漁村、月院社がある。

みねむらはくさい
峯村白齋 安永元年(1772)~嘉永4年(1851) 俳人

水内郡石村(現在の長野市豊野町石)の豪農峯村藤兵衛の長男として生まれ、幼名は清蔵、後に仙蔵といった。早くから俳諧に親しみ、善光寺町の戸谷猿左に学び、茂呂何丸、小林一茶らと交遊した。また石村長秀院の発明和尚に漢学を学び、南画にも長けていた。『俳句手帳』、『花の俳』などの発句集があり、俳文集として『四景楼之辞』などがある。別号は、古扇、古仙、古僊、寒岳園。後に白齋と称した。寺子屋寒岳園を営み、これを庵号とした。



『俳句手帳』(長野市立博物館所蔵)

かんばらどうさん

鎌原桐山 安永3年(1774)～嘉永5年(1852) 朱子学者・故実家

松代藩の家老鎌原重義の三男として生まれた。名は重賢、のち8代真田幸貫から一字を賜り貫忠、号を子恕と改める。

桐山は、岡野石城、佐藤一斎に儒学を学び、長国寺住職の千丈実巖に詩文を学んだ。射術、馬術、卜伝流槍術、長沼流兵学、小笠原流礼法、点茶など諸芸を極めた。門人に山寺常山、佐久間象山、長谷川昭道らがあった。詩作、文章もたしなみ、その蔵書は1万冊にのぼったとされる。著作に『朝陽館漫筆』150巻余、『隠居放言』14巻、『大東鈴家智囊』などがある。没後門人等によって松代町東条に碑が建てられ、碑文は佐藤一斎が記している。



さなだゆきつら

真田幸貫 寛政3年(1791)～嘉永5年(1852) 武士・松代藩8代藩主

信濃守。号は遂翁、一誠斎。陸奥白河藩主松平定信の二男で、真田幸専の養子となり、文政6年(1823)家督を継ぎ、10万石を領する。藩政改革を実施し、特に富国強兵策を採用し、藩士佐久間象山を抜擢して、洋学や西洋砲術の研究、洋式大砲、鉄砲の鑄造、殖産興業などを推進した。

天保12年(1841)、幕府老中に登用され、海防掛として、諸侯に海岸防御のために大砲を鑄造することなどを命じる。弘化4年(1847)の善光寺大地震では、幕府より1万両を拝借した。嘉永5年(1852)、藩校文武学校の建築準備に着手後、62歳で没した。



てらしまそうはん

寺島宗伴 寛政6年(1794)～明治17年(1884) 和算家

上水内郡鬼無里村(現長野市鬼無里)に生まれ、はじめ宮城流和算の叔父寺島半右衛門陳玄について学び、文化13年(1816)に免状を得る。その後、松代藩士町田源左衛門正記について最上流和算を学び、文政10年(1827)に免状を取得。鬼無里を中心に信濃を遊歴し、門弟衆には信濃から越後にかけて1,100人を超える門弟の名が記されている。

和算以外にも家相、規矩術、そろばん、折形、挿花も教授した。鬼無里の松巖寺に奉納算額が残されている。『算法続浅問答』、『算法隔日記全二十巻』などがある。通称は数右衛門、号は北明。



いわしたさだあき
岩下貞融 享和元年(1801)~慶応3年(1867) 国学者

善光寺大門町(現在の長野市大字長野大門町)の素封家岩下貞諒の長男として生まれる。文政2年(1819)、名古屋へ行き、塚田大峯に師事する。また、京都で頼山陽に詩文を、江戸で清水浜臣に国学を修め、和漢の学に通じ、詩歌、書画に長けていた。善光寺大勸進別当に仕える寺侍で、和歌、詩文、国学関係の出版物のほか善光寺についての初の研究書『善光寺史略』、『善光寺別当伝略』などを著した。雅楽を奏する楽人でもあった。近世善光寺町を代表する学者で、本姓は滋野、通称は多門、号は桜園、菅山。名は「さだみち」とも言う。



旧居跡にある顕彰碑

あおき せつけい
青木雪卿 文化元年(1804)~明治34年(1901) 武士・絵師

現在の長野市松代町岩野に生まれる。通称を八重八、号を雪卿とした。川中島の更級雄斎に絵を学んだとされる。松代城の障壁画を描き、多くの肖像画を描いたと伝えられている。

弘化4年(1847)に起こった善光寺地震後の被災地を8代藩主真田幸貫の巡行どおりに描いた『感応公丁未震災後封内巡視図』は、被災地を写實的に描いた彼の代表作であり、災害史の重要な記録である。パノラマ写真のような眺望図や实景を尊重する極めて写實的な描写に写真の影響を想像させるような表現が見られる。



『感応公丁未震災後封内巡視図』
 (広瀬村百舌鳥原)

やまてらじょうさん

山寺常山 文化4年(1807)～明治11年(1878) 武士・儒学者

通称は源太夫、号を常山といった。松代藩160石取りの武士の家に生まれ、藩の監察、普請奉行を経て、江戸で兵学、経学などを学び、佐藤一斎や中村敬宇らと親交を深めた。8代藩主真田幸貫が老中となると、藩士に兵学を講じ、9代幸教の代には側役頭取を兼ねた。また、寺社奉行や郡奉行を勤めた。

明治維新後は、明治政府の招きを固辞して松代に留まり、晩年は長野に塾を開いて門人の教育にあたった。屋敷地は山寺常山邸として松代町竹山町に現存し、庭園が登録記念物(名勝地)に登録されている。



さくまじょうさん

佐久間象山 文化8年(1811)～元治元年(1864) 武士・儒学者・兵学者

松代藩の下士佐久間家の長男として、埴科郡松代町浦町(現在の長野市松代町松代)に生まれる。通称は修理、号を象山、子明。儒学を学び、朱子学を信奉する。天保4年(1833)、江戸に出て佐藤一斎に学び、その頃、渡辺崋山、坪井信道、藤田東湖らと交わり、親交を深めた。

アヘン戦争(天保10年(1839)～天保13年(1842))の衝撃を受けて対外的危機感に目覚め、天保13年(1842)、8代藩主真田幸貫が老中海防掛となると海外の事情を積極的に学んだ。弘化元年(1844)、黒川良安と蘭学、漢学の交換教授を行い、その後オランダ語の百科事典などによって新しい知識を身につけて様々な科学実験を行った。天保13年(1842)、江川英龍に入門して西洋砲術を学び、嘉永3年(1850)、江戸深川で西洋砲術の塾を開いた。弟子に勝海舟、坂本龍馬、吉田松陰などがいる。



安政元年(1854)、吉田松陰のアメリカ密航未遂事件に連座し、松代に蟄居を命じられる。元治元年(1864)、幕府の命を受け、海陸御備向手付御雇として京都に上るが、7月11日三条木屋町で尊攘派によって暗殺される。享年54歳であった。名の象山は、「ぞうざん」と読まれることもある。

はせがわあきみち 長谷川昭道 文化12年(1815)～明治30年(1897) 武士・皇道学者

通称を深美といい、号を戸隠舎といった。藩の竹内錫命、鎌原桐山、山寺常山らに漢学や兵学を学び、江戸で佐藤一斎に師事した。郡奉行兼勝手元締役などを務めた。一貫して尊皇攘夷を唱え、佐久間象山らの派閥と対立した。慶応元年(1865)京都留守居役となり、明治維新に当たっては、教道局御用掛として大学創立の調査に当たり太政官権大史に任ぜられた。



明治3年(1870)に農民一揆の松代午札騒動が起ると、知藩事真田幸民の強い要請で官を辞し、松代に帰って騒動の収拾に当たった。大正4年(1915)正五位を贈られた。維新时期に藩論を勤皇に統一し、著書に『皇国述義』、『神皇正統記譜略』などがあり、真田公園に顕彰碑が建てられている。

きたむらきよまつ 北村喜代松 天保元年(1830)～明治39年(1906) 彫工

頸城郡市振村(現在の新潟県糸魚川市市振)の宮大工建部家に生まれ、上水内郡長野村(現在の長野市)の北村家に入婿した。喜代松は、早くから鬼無里に来て、屋台の彫刻などを手がけた。結婚後15年間余り上水内郡長野町(旧長野市)に住み、47歳の明治9年(1876)に故郷の市振村へ移る。

喜代松の手による作品は、長野市内では鬼無里の屋台や神楽彫刻、戸隠神社宝光社の拝殿彫刻、市外では飯山市、野沢温泉村などの本堂彫刻、新潟、富山、群馬の本殿、拝殿など彫刻30余りが残されている。

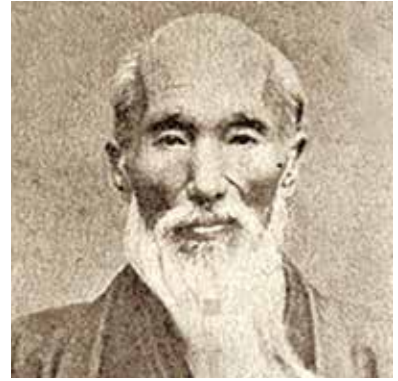


鬼無里神社の屋台
(長野市有形文化財(工芸品)、安政4年(1857))

おおさとちゅういちろう

大里忠一郎 天保6年(1835)~明治31年(1898) 製糸家

埴科郡西条村(現在の長野市松代町西条)の旧家相沢家に生まれ、松代藩士大里家の養子となる。士族授産のため製糸業に着目し、官営富岡製糸場を模範として明治7年(1874)に日本初の民間蒸気製糸工場(西条村製糸場、後の六工社)を有志と共に設立した。資金の乏しい中、研究、改良を重ねて蒸気汽罐や陶器の繰糸鍋を発明し、上質の生糸を生産して製糸業の発展に努めた。西条村製糸場は民間蒸気製糸の工場として全国の模範となった。



明治11年(1878)には長野県御用掛を命じられ、県の設立した製糸場の主務を努め、六十三国立銀行を創設して支配人兼副頭取となった。明治21年(1888)に松代町に蚕糸業伝習所を新設し、学理的な研究と一切の実務的技術を習得させて、後進の育成に努めた。明治23年(1890)には、六工社の生糸がパリで開かれた万国博覧会で金牌を受賞した。その後、全国各地で講演を行い、日本の製糸業の優秀性を訴え、その振興を図った。また、六工社の生糸のアメリカへの直輸出の道を開くなど、製糸家として活躍した。

わだえい

和田英 安政4年(1857)~昭和4年(1929) 工女

安政4年(1857)に、横田数馬、亀代の二女として松代町代官町に生まれた。明治6年(1873)に、松代地域の工女を引き連れて16歳で上州官営富岡製糸場に入場し、フランス式繰糸技術を伝習して一等工女となった。明治17年(1884)に、松代西条村の日本最初の民間蒸気製糸場の西条村製糸場(後の六工社)事業開始とともに富岡製糸場を退場し、教婦として、その創業に尽力した。明治41年(1908)から大正2年(1913)にかけて富岡製糸場の生活や六工社創立当時を追想して執筆した『富岡日記』は、当時の新しい女性の生き方が映し出された貴重な記録となっている。また、明治44年(1911)には『吾が母の躰』を著した。



生家である横田家は、敷地と建物のほぼ全てが現存し、松代藩中級武士の生活の様子をしのぶことができるとして、重要文化財に指定され、一般公開されている。

保科百助^{ほしなひやくすけ} 慶応4年(1868)~明治44年(1911) 教育者・鉱物学者

現在の北佐久郡立科町山辺に裕福な農家の三男として生まれる。明治24年(1891)に長野県師範学校を卒業後、県内の小学校で教師、校長を歴任するかたわら、鉱物標本の採集に努め、退職後は地質学の普及や図書館設立運動に取り組んだ。

明治36年(1903)、独力で収集、整理した標本243点からなる長野県地学標本(第1次) 103組をつくり、県内の学校、東京帝国大学、帝国博物館、震災予防調査会、皇室等に献上した。また、地学講習会等を県内各地で行い、地質学の普及に取り組んだ。明治37年(1904)には、貧困で学ぶことのできない人々を対象とした保科塾(明治39年(1906)閉鎖)を長野市長門町に開くほか、明治40年(1907)、図書館設立を目的に筆墨の行商を始め、県内を回って図書館の必要性を説き、募金や書籍の寄贈を訴えた。自らの蔵書も全て寄贈し、信濃教育会附属図書館(後の長野県立長野図書館)の設立に尽力した。

自ら五無齋^{ごむさい}と名乗ったので、長野県内では保科五無齋^{ごむさい}で知られている。



保科塾のあった場所に近い
加茂神社に建つ石碑

藤原善九郎^{ふじわらぜんくろう} 明治3年(1870)~大正12年(1923) 煙火師

杜煙火^{もりはなび}の盛んな上水内郡安茂里村(現在の長野市安茂里)に生まれる。同村平柴に信濃煙火合資会社を設立し、24歳のときに北信地区花火師組合を発足させ、大正4年(1915)には長野県煙火組合を創設して組合長になる。組合の事業として『煙火之研究』を発行し、長野県煙火師の仲間の中心、指導者として活躍した。この組合に73名の会員が参加したが、煙火の需要が多くなく、農業との兼業をする半農半工が大多数であった。煙火技術の改良に取り組む、初めて打ち上げ煙火に色をつけ、また、初めて尺玉の打ち上げに成功した。明治43年(1910)3月には、名古屋で開催された第10回関西府県連合共進会に2尺玉を出品し、来場者に喜ばれた。



ながおかすけじろう

長岡助治郎 明治4年(1871)～昭和14年(1939) 教員・郷土史家

明治25年(1892)に松代尋常小学校専科教員(音楽科)となり、以来教員として50年間勤務した。この間、文武学校校舎の改築には、文武両道の精神を受け継ぐ松代の象徴であり、貴重な文化財であることを主張し、改築話を中止させた。松代雅楽は、8代藩主幸貫の時代から武家の式楽として松代城下でも始められ、明治維新後中断していたが、宮島春松らと協力してこれを復活させた。また、江戸時代の祇園祭の際、藩や藩主の弥栄を祈って松代城大御門前で踊られていた松代大門踊りは、廃藩後絶えていたが、開府300年祭(大正10年(1921))の挙行に際して助治郎の指導の下、肴町の青年等により再開された。



かわむらきざん

川村驥山 明治15年(1882)～昭和44年(1969) 書家

静岡県袋井市に漢学者東江の長男として生まれる。幼い頃から書と漢詩を父川村東江や太田竹城、岡田良一郎に学び、12歳のころには、明治天皇の銀婚式に孝経と出師表すいしのひょうの作品を献上し、天覧の栄を賜る。幼年から全国各地の素封家の間を筆一本を持って歩く、文人墨客的な生活を送る書家であった。



昭和20年(1945)の東京大空襲により、戦禍を避けて篠ノ井に疎開することとなり、居宅を新築するなどして信州に永住する決心を固める。昭和37年(1962)に支援者により常設展示を目的とする驥山館が開館した。

飄々とした無欲達観の人で筆に生涯を託し、純朴な楷書と次々と豹変する狂草で、漂泊の魂を表現して世俗を超越した明治から昭和期の日本書道界の第一人者として活躍し、昭和26年(1951)に書道界で初めて日本芸術院賞を受賞した。本名は川村慎一郎、酒仙としても知られ、別号に酔仏居士、酔驥、長嘯庵主人などがある。

三沢勝衛 ^{みさわかつえ} 明治18年(1885)~昭和12年(1937) 教育者・地理学者

更級郡三水村(現在の長野市信更町三水)に生まれる。検定で教員資格を取り、大正9年(1920)、長野県立諏訪中学校(現在の長野県立諏訪清陵高校)教諭を勤める。野外調査を中心とした独自の地理教育を行う。太陽黒点の観測をはじめとする天文学の研究に打ち込み、総合的で独創的な風土論を展開した。県下の小中学校で教え、教え子からは古畑正秋(天文学)、藤森栄一(考古学)、矢沢大二(地理学)、諏訪彰(火山学)、新田次郎(作家)など多くの文化人、学者、研究者を輩出している。また、信州の冬の厳寒と乾燥を利点視し、凍み豆腐、寒天作りなどの産業振興を勧めた。著書に『風土産業』、『郷土地理の観方』、『新地理教育論』などがある。



生家跡にある石碑

青木儀作 ^{あおきぎさく} 明治22年(1889)~昭和40年(1965) 煙火師

上水内郡安茂里村差出(現在の長野市安茂里差出)に三男一女の末子として生まれる。早くから村社久保寺煙火行事に参加して花火と関わり、地元には藤原善九郎経営の煙火工場もあり、煙火に関心を寄せて研究を重ねた。大正5年(1916)には煙火製造業に専念する煙火師となる。

芯入り花火を研究し、抜芯技法を創始完成して、昭和3年(1928)に多重芯割物(八重芯菊花火)の製法を完成させ、各地で開かれる花火競進会で優勝の成績を重ねて紅屋青木の盛名は全国にとどろくに至った。美しい色を出す火薬の粒を星と呼んでいるが、色の違った薬を二重、三重に掛け重ねる掛け星は日本独特の変色星で、青木儀作が工夫して完成させた。



日本の花火を芸術品にまで昇華させた功労者であったことから、昭和34年(1959)に黄綬褒賞を受章し、これに伴い昭和36年(1961)に日本煙火芸術協会が誕生して青木が会長に就任した。儀作の技術は、子息多門に継承され、さらに華麗なものとなっていった。

埴科郡東寺尾村(現在の長野市松代町東寺尾)に生まれる。遊民と号した。10代後半から文芸活動をはじめ、勸業新聞、中信時報の記者をし、昭和12年(1937)から昭和30年代まで松代町会議員を務めた。

自らの職業を著述業とし、実地踏査を踏まえて郷土史の研究を続けた。大正7年(1918)から10年間、松代町史編纂主任に専念し、松代町史を完成させた。大室古墳群の168号墳は、大平が調査したことから、大平塚とも呼ばれている。昭和4年(1929)に埴科郷土研究会、昭和8年(1933)には北信郷土叢書刊行会設立の中心メンバーとして活動。著書に『松代風土記』、『真田幸貫』、『佐久間象山』、『真田幸弘と恩田木工』などがある。松代町東条出身の中村柊花と親交を持ち、詩や和歌なども詠んだ。



4 ◆ 文化財等の分布状況

(1) 長野市内の指定等文化財

本市には、国指定・選定で39件、県指定で58件、市指定で291件の文化財がある。そのほかに国登録の有形文化財・記念物が144件ある。

(令和5年(2023)4月1日現在)

種 類		国		長野県	長野市
		指定・選定	登 録	指 定	指 定
有形文化財	建造物	8 (うち国宝1)	136	11	65
	絵画	2	0	2	8
	彫刻	15	0	8	27
	工芸品	3	0	7	15
	書跡・典籍	2	0	2	2
	古文書	0	0	0	10
	考古資料	0	0	1	12
	歴史資料	1	0	0	3
無形文化財		0	0	0	7
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	14
	無形の民俗文化財	0	0	4	9
記念物 ^{※1}	遺跡	6	0	5	46
	名勝地	0	8	1	4 ^{※2}
	動物、植物、地質鉱物	1	0	16	69
伝統的建造物群		1	—	—	—
合 計		39 (うち国宝1)	144	58	291

※1 国指定により「遺跡」は史跡、「名勝地」は名勝、「動物、植物、地質鉱物」は天然記念物となる。県・市の指定の場合は、長野県指定史跡、長野市指定史跡のように、史跡・名勝・天然記念物の前に長野県・長野市が付く。

※2 名勝・天然記念物を包括した文化財1件を含む。

このほか、国認定の重要美術品6件(絵画2、彫刻1、工芸品2、書跡1)、国選択の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財1件がある。市選択の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財8件、市選定の選定保存技術1件がある。



主な文化財



(2) 国指定等文化財

本市における国指定文化財は、38件あり、国宝が1件、重要文化財が30件、史跡・名勝・天然記念物が7件である。また、国選定の重要伝統的建造物群保存地区が1件ある。主な文化財は以下のとおりである。

ア 国宝、重要文化財

建造物について、国宝は善光寺本堂つたりずし附厨子1基の1件であり、重要文化財は、善光寺三門と善光寺経蔵、松代地区の松代藩真田家の初代藩主の位牌を祀る真田信之靈屋、信之の三男の位牌を祀る真田信重靈屋、松代藩の武家住宅である旧横田家住宅しらひげ、鬼無里地区の白髭神社本殿、芋井地区の葛山落合神社本殿の7件で、室町時代、安土桃山時代、江戸時代の建築年代である。



旧横田家住宅(重要文化財)

絵画では、善光寺大本願所蔵の絹本著色阿弥陀聖衆来迎図(鎌倉末～室町初期)が県下に伝存する浄土教来迎図の中では最古のものとして、また、若穂地区の清水寺の絹本著色両界曼荼羅図(鎌倉時代)が県下における曼荼羅の最佳品として重要文化財に指定されている。

彫刻では、若槻地区の小金銅仏(銅造観音菩薩立像)が白鳳時代のもので最も古い。若穂地区の清水寺は、大正5年(1916)の火事で焼失したのちに奈良県から仏像を迎え、



銅造観音菩薩立像
(重要文化財)



鉄鍬形
(重要文化財)

そのうち木造聖観音立像ほか6軀の木造仏がいずれも平安時代から鎌倉時代初頭の作とされ、重要文化財となっている。このほか、平安時代の木造仏として松代地区の清水寺に木造千手観菩薩立像ほか2軀、七国会地区の木造観音立像、信更地区の観音寺の木造十一面観音立像が重要文化財に指定されている。また、善光寺御開帳の際に公開される前立本尊(金銅阿弥陀如来及兩脇侍立像)3軀も重要文化財となっている。

工芸品は、奈良時代から平安時代初期のものとされる戸隠神社の牙笏、平安時代のものとされる若穂地区の清水寺の鉄鍬形(長野市博物館寄託)など3件が指定されている。

書跡では、戸隠神社に残る紙本墨書法華経残闕(平安時代末期～鎌倉時代)を含め2件が重要文化財に指定されている。

歴史資料では、善光寺大勧進所蔵の室町時代享禄4年(1531)の善光寺再建にかかわる門その他付属建物の設計図である善光寺造営図が重要文化財に指定されている。

イ 史跡、名勝、天然記念物

古墳の史跡に古墳時代の前期古墳の川柳将軍塚古墳、姫塚古墳、中期古墳の埴科古墳群、中期から後期古墳で積石塚を特徴とする大室古墳群(166基)がある。そのほかの史跡に松代地区にある松代藩ゆかりの松代城跡附新御殿跡、旧文武学校、松代藩主真田家墓所がある。

天然記念物に市北部の中山間地域の芋井地区にある素桜神社の神代ザクラの1件がある。



素桜神社の神代ザクラ(天然記念物)

ウ 伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物群保存地区は、戸隠神社中社と宝光社の表参道周辺に形成された宿坊群が戸隠伝統的建造物群保存地区として重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

保存地区は、江戸時代の敷地割や道、水路などの構成がよく維持されており、標高が高い厳しい環境にあって、江戸時代後期から近代にかけて隆盛した戸隠信仰の下、多くの参詣者を受け入れるために大型化した宿坊が、社殿や在家の住宅、石垣、庭園等と一体となって優れた歴史的まちなみが形成されている。



戸隠宝光社地区の町並み

エ 登録有形文化財、登録記念物

登録有形文化財(建造物)は136件あり、江戸時代から明治時代までの建築物が多く、中には大正時代や昭和時代初期のものもある。これらの建造物は、善光寺周辺の旅館、商店の店舗等で20件、松代地区の寺社、店舗、個人住宅等で79件あり、この両地区に集中している。

登録記念物は8件で、全て松代地区の泉水路を構成する武家住宅などの庭園(旧山寺常山氏庭園、象山神社園池など)である。

オ 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、重要美術品

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として、若穂地区の高岡集落で正月15日に行われる高岡の小豆焼き行事が選択されている。小豆焼き行事は、囲炉裏の火で熱したカワラケに小豆を載せ、小豆の回りで年の吉凶を占う予祝行事の一つで、道祖神信仰と関わりがある。

このほか重要美術品として、絵画2件、工芸品2、彫刻1件、書跡1件の6件が認定されている。



小豆焼き行事
(記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財)

(3) 県指定文化財

本市の県指定文化財は、58件あり、その内訳は県宝が31件、民俗文化財が5件、史跡・名勝・天然記念物が22件となっている。

ア 県宝

県宝31件の内訳は、建造物11件、絵画2件、彫刻8件、工芸品7件、書跡2件、考古資料1件となっている。主な文化財は以下のとおりである。

(ア) 建造物

室町時代後期の葛山落合神社境内諏訪社社殿を最古とし、戦国時代から明治時代後期までの寺社の本堂、表門、武家住宅、旧長野県師範学校教師館、メソジスト教会の牧師として明治39年(1906)に着任したダニエル・ノルマンの邸宅(旧ダニエル・ノルマン邸)など11件が指定されている。



熊野出速雄神社本殿(県宝)

このうち7件が松代地区にあり、中世の熊野系修験を伝える建築遺構である皆神山の熊野出速雄神社本殿や大英寺本堂(真田信之夫人の霊屋)、林正寺本堂(真田家2代藩主信政の霊屋)、長国寺開山堂(真田家3代藩主幸道の霊屋)、4代藩主真田信弘霊屋(長国寺)といった真田家一連の霊屋群のほか、現存する松代藩武家屋敷の中で最も古い年代に属する旧前島家住宅、真田家の祈願寺だった開善寺経蔵が指定されている。

(イ) 絵画、彫刻、工芸品、書跡

絵画は、善光寺大勧進が所蔵する絹本著色釈迦三尊像が県内では遺例が少ない鎌倉時代に遡る仏画として指定を受けている。また、善光寺淵之坊に残る室町時代制作とされる絹本著色善光寺如来絵伝(3幅)は、数少ない中世の善光寺如来に関わる絵伝であるとともに、絵解き図として実際に善光寺信仰流布に利用されていたことがうかがえる貴重な文化財である。

彫刻は、中条地区にある正法寺の木造聖観音菩薩立像ほか2躯、安茂里地区にある正覚院の木造伝観音菩薩立像など平安時代から鎌倉時代にかけての仏像8件(12躯)が指定されている。



絹本著色善光寺如来絵伝(県宝)

工芸品は、松代地区の玉依比売命神社^{たまよりひめのみこと}で毎年1月7日に行われる児玉石神事^{こだまいし}で用いる児玉石^{こだまいし}が指定されている。児玉石神事^{こだまいし}は、神社所蔵の児玉石^{こだまいし}と呼ばれる多数の玉石類の数を数え上げるもので、石の数の増減で年の吉凶を占う予祝儀礼であり、この玉石類のうち591顆が県宝となっている。県宝は、児玉石^{こだまいし}を含め7件が指定されている。

書跡は、戸隠神社が所蔵する戸隠山の縁起等を記した室町時代の戸隠山顕光寺流記^{とがくさんけんこうじるき}や、松代地区の真田宝物館所蔵の真田家初代幸隆以来真田家に代々伝来した文書381点が真田家文書として指定されている。

イ 有形民俗文化財・無形民俗文化財

有形民俗文化財が1件、無形民俗文化財が4件指定されている。

(ア) 有形民俗文化財

小正月関係資料コレクションは、市内外の小正月行事で用いられる道具を長野市立博物館が収集したものである。市指定には、江戸時代の松代焼コレクション(真田宝物館蔵)や、善光寺で年末年始にかけて行われる堂童子行事で使用される一連の道具類(善光寺の正月行事用具)、第四地区の妻科と吉田地区の中越に残る庚申講人別帳及び用具一式、善光寺町の祇園祭で曳航されていた第一地区の西町上の山車(長野市立博物館寄託)などがある。

(イ) 無形民俗文化財

長野盆地の平坦地に位置する篠ノ井塩崎の長谷及び越で行われる道祖神信仰に基づく小正月行事の巨大なわら人形と男根をつくるドンドヤキ、中山間地域の大岡地区の芦ノ尻組^{あしのしり}で行われる石碑の上にしめ縄で神面を形づくる芦ノ尻^{あしのしり}の道祖神祭り、神仏混淆の時代から伝わる戸隠神社太々神楽、安茂里地区の犀川神社境内で秋祭りの際に行われる仕掛け花火の犀川神社^{もりはなび}の杜煙火が指定されている。



芦ノ尻の道祖神祭り(県指定無形民俗文化財)

ウ 史跡、名勝、天然記念物

史跡に5件、名勝に1件、天然記念物に16件が指定されている。

史跡のうち、松代東条の菅間王塚古墳と松代町豊栄の桑根井空塚は合掌形石室の古墳で、菅間王塚古墳は、積石塚としては県内で最大規模の古墳である。史跡大室古墳群とともに積石塚、合掌形石室墳の地域性がみて取れる。山岳信仰、修験の霊場として知られる戸隠神社奥社、中社、宝光社(顕光寺奥院、中院、宝光院)は、戸隠神社信仰遺跡として指定されている。また、信州新町牧野島にある牧之島城跡は、武田信玄が馬場信房に築かせた武田流の平山城で、戦国時代の縄張りがよく残されている。

名勝は、鬼無里地区の奥裾花峡谷が指定されている。

天然記念物は、戸隠神社奥社社叢、真島のクワ、戸隠豊岡のカツラなど樹木、市域の大地の形成を物語る戸隠川下のシンシュウゾウ化石、信州新町地区の山穂刈のクジラ化石や信州新町地区の浦沢、中条地区の菅沼の絶滅セイウチなどの化石類のほか、若穂地区の大柳及び井上の枕状溶岩、鬼無里地区の深谷沢の蜂の巣状風化岩の地質標本がある。

(4) 市指定等文化財

市指定等の文化財は300件あり、このうち有形文化財の142件と、史跡、名勝、天然記念物等の119件で大半を占めている。主な文化財は、以下のとおりである。

ア 有形文化財

有形文化財142件の内訳は、建造物65件、絵画8件、彫刻27件、工芸品15件、書跡2件、文書10件、考古資料12件、歴史資料3件となっている。

(ア) 建造物

最古のものは、篠ノ井地区にある平安時代の石造多層塔で、次いで松代地区の石幢(笠仏)が鎌倉時代のものとされる。また、南北朝から室町時代にかけて造立された石造宝篋印塔が3件指定されている。木造では室町時代、応永12年(1405)の棟札が残る松代地区の源関神社本殿と様式から室町時代頃のものとする浅川地区の諏訪神社本殿の2件、以上7件が江戸時代より前の建造物である。

江戸時代のものとしては、寺社(古牧地区の守田廻神社本殿、鬼無里地区の松巖寺経蔵・観音堂・鎮守堂など)、武家住宅の表門(松代地区の旧白井家表門など)、鐘楼(旧



石造多層塔
(市指定有形文化財)

松代藩鐘楼など)、武家住宅(松代地区の旧樋口家住宅)、霊屋(松代地区の大鋒寺真田信之霊屋)、石造物(吉田地区の中越の庚申塔など)など合わせて42件、明治以降のものでは神社(鬼無里地区の荒倉山神社本殿、大岡地区の塩竈神社など)が多くを占め、そのほかに学校(更北地区の旧作新学校本館)と町屋(松代地区の旧金箱家住宅)が指定されている。



旧作新学校本館(市指定有形文化財)

(イ) 絵画、彫刻

絵画は、淵之坊の善光寺如来絵伝と同様に絵解きに利用された跡がみられる長沼地区の西巖寺の絹本著色鬼女紅葉狩の図(江戸時代)と蓮如上人絵伝(4幅、江戸時代)や、吉田地区の善敬寺の絹本著色親鸞聖人絵伝(4幅、江戸時代)など8件が指定されている。

彫刻では、平安時代の木造阿弥陀如来立像、木造毘沙門天像など6件、鎌倉時代の木造聖徳太子立像、木造伐折羅大将像など7件、室町時代の石造地藏菩薩坐像、木造釈迦如来像、明治初頭の廃仏毀釈によって戸隠山奥院の仁王堂から第二地区の寛慶寺に移された木造金剛力士像など5件、戦国時代から江戸時代の木造大日如来坐像、木造地藏菩薩半跏像など9件を合わせて27件が指定されている。



木造伐折羅大将像
(市指定有形文化財)

(ウ) 工芸品、文書

工芸品は、現在の新潟県糸魚川市市振出身の宮大工北村喜代松によって幕末から明治時代初期にかけて製作された鬼無里地区にある4基の山車と2基の神楽のほか、元善町の世尊院の五鈷鈴、西光寺ほかの木造百万塔、玉依比売命神社の漆地彩色装神輿など15件がある。

文書は、更北地区に残る戦乱による村の荒廃を物語る失人(逃亡)の記載が見られる豊臣秀吉による太閤検地の検地帳の「文禄四年中氷鉦村下氷鉦村御検地帳」(1595年)など10件がある。



文禄四年中氷鉦村下氷鉦村御検地帳
(市指定有形文化財)

イ 無形文化財

無形文化財には、善光寺造営に関わる用材の運搬時に唄われたところから始まるとされる善光寺木遣りや、江戸時代初期に八橋検校によって創始され、真田家2代藩主側室のお伏せ(二代目お通)によって松代地区に伝えられた八橋流^{やっはしりゅう}箏曲^{そうきょく}など7件が指定されている。



善光寺木遣り(市指定無形文化財)

ウ 有形民俗文化財・無形民俗文化財

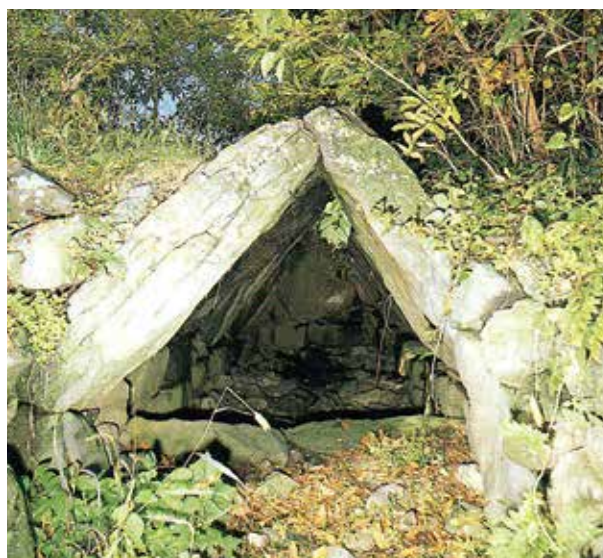
有形民俗文化財は、西町上区の上車、松代藩の御用窯として江戸時代に栄えた松代焼のコレクション、中越と妻科の庚申請人別帳及び用具一式、小島の門灯籠と舞台など14件ある。

無形民俗文化財は、市内各所で行われる獅子神楽のうち、大岡地区の川口太神楽や第三地区の権堂町の勢獅子など代表的なもの5件が選ばれている。

このほか松代地区の玉依比売命神社^{たまより ひめのみこと}で1月6日及び7日の2日間にわたって行われる一連の予祝行事(玉依比売命神社の御田祭、児玉石神事、御判神事)や大岡地区の高峰寺の種蒔会といった年中行事、芋井地区の芋井甚句や若穂地区保科の高井穂神社で行われる道中行列の赤熊(奴卷)^{しゃあま やっこまき}といった芸能などが指定されている。

エ 史跡、名勝、天然記念物

市指定の史跡は、縄文時代の集落遺跡である中条地区の宮遺跡、古墳時代の祭祀遺跡である古里地区の駒沢祭祀遺跡のほか、古墳(篠ノ井地区の中郷神社前方後円墳、松代地区の竹原笹塚古墳など)、山城(豊野地区の大倉城跡、芋井地区の葛山城跡など)、寺院跡(豊野地区の神護寺跡、戸隠原の大頭庵跡など)、善光寺参道(敷石)など46件を数える。



竹原笹塚古墳(市指定史跡)

市指定の天然記念物は、戸隠地区のカワシンジュガイ、松代地区の皆神山のクロサンショウウオの産卵池、明徳寺のヒキガエル産卵池といった動物、芋井地区の葛山落合神社社叢、吉田地区の吉田のイチョウ、戸隠地区の戸隠神社中社の三本杉などの樹木、鬼無里地区の奥裾花のケスタ地形、漣痕^{れんこん}(リップルマーク)といった地質関係など合わせて69件にのぼる。

名勝は、信州新町地区の久米路峡など3件、名勝と天然記念物を包括した大岡地区の樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落がある。



樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落
(市名勝・天然記念物)

オ 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財は、犀川神社太神楽、赤野田神社太神楽など太神楽や獅子舞、篠ノ井塩崎の雨乞い祈願の三十三燈籠、篠ノ井地区の有旅犬石と東横田で7月末から8月初頭に行われる稲の害虫除けの虫送り行事など8件が選択されている。

カ 選定保存技術

選定保存技術は、吉田地区の桐原牧神社で春祭りの際に奉納、頒布される藁馬の製作技術が選定されている。



桐原牧神社の藁馬(市選定保存技術)

(5) 未指定の文化財

これまでの調査結果の中から指定文化財を除いた地区別種類別の未指定文化財数は次の表のとおりとなっている。

■ 地区別種類別未指定文化財数

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群保存地区	地区別合計	
	建造物	美術工芸品							民俗文化財		無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物				
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	歴史資料			考古資料	有形の民俗文化財						無形の民俗文化財			
第一	2						129	9			4	9	6								159
第二	9	28	2	2			196	1	1		9	8	5	1							262
第三	1						53				5	1									60
第四	5		2				37	4			2	1	1								52
第五	2						7	5			2		3								19
芹田	3		4				66		2			20	8								103
古牧	23	4	5		3		5	2				43	9	4		13					111
三輪	1						47					2	4	1							55
吉田	2						9	1				10	6	2							30
古里	22						15					7	7	6							57
柳原							17					5	4								26
浅川							7					18	7	2					1		35
大豆島	10						18						3	4							35
朝陽	1						18	1				9	8								37
若槻	61		13				27	3					9	16							129
長沼	26	1	2		2	2	24					3	7	6	2	3					78
安茂里	15	3	26	2	1		119	20	5			15	5	4							215
小田切	51		6				42		1			2			8	15		5			130
芋井	2		16				19	2				27	6	1							73
篠ノ井	44		5			1	114	21	6			20	28								239
松代	79	20	12	7	2	1	125	27	1	1		22	11	10							318
若穂	102	2	50	1			120	15	3		2	27	22	3			1				348
川中島	26		3		1		87	2			1	21	20	3							164
更北	44	7	5				149	1	1			19	14	5		1					246
七二会	17		2				111					4	9	1							144
信更	66		4		5		30	1				50	2								158
豊野							94	1					8								103
戸隠	28		7					4				6	21								66
鬼無里	4	3	6				107	5				1	10	4							140
大岡	37		1			1	85	4				2	4	1							135
信州新町	3		223										4								230
中条	1	1	122										6								130
計	687	69	516	12	14	5	1,877	129	20	1	25	352	257	74	10	32	1	6	0	4,087	



ア 歴史的風致形成建造物

長野市歴史的風致維持向上計画で定められた重点区域における歴史的風致の維持及び向上を図る上で重要な建造物を指定している。

指定建造物は、第7章に記載している。

イ 景観重要建造物

特色のある景観形成を特に推進する地区の景観形成上、維持、保全する価値があり、その地域のシンボリックな景観を生み出している建造物を指定している。

	名称及び指定日	外 観	地 区
1	藤屋旅館 平成20年(2008)5月1日 備考 登録有形文化財(建造物)		第二地区
2	中澤時計本店 平成20年(2008)5月1日 備考 登録有形文化財(建造物)		第二地区
3	八田邸 平成20年(2008)5月1日 備考 登録有形文化財(建造物)		松代地区
4	西澤邸 平成20年(2008)5月1日		若穂地区

	名称及び指定日	外 観	地 区
5	北村邸 平成20年(2008)5月1日 備考 登録有形文化財(建造物)		若穂地区
6	宿坊極意 平成23年(2011)11月7日 備考 登録有形文化財(建造物)		戸隠地区
7	越志旅館 平成23年(2011)11月7日 備考 登録有形文化財(建造物)		戸隠地区

ウ 長野市伝統環境保存区域内における伝統環境を構成している建造物等及びこれと一体をなす環境を保存するために特に必要と思われる物件

長野市伝統環境保存条例に基づき定めた長野市伝統環境保存計画で設定した保存区域内で伝統環境を構成している建造物、庭園、水路、松代地区の表柴町、代官町、馬場町、竹山町が保存区域に設定されており、その区域内の江戸時代から明治時代に建てられた建造物、庭園、及び、水路が指定を受けている。

エ その他の建造物

松代地区の松代城下町、第二地区の善光寺門前町、戸隠地区の宿坊群といった歴史的建造物が多く残されているまちなみのほか、北国街道や松代道沿いの丹波島宿や善光寺宿、川田宿、長沼宿、神代宿などの旧宿場町に当時の面影を残す町並みが残されている。



麻煮の釜屋(信州新町)

まちなみを形成する建物以外では、信州新町地区にある麻煮の釜屋は、かつて盛ん

だった麻生産の様子を伝えている。

オ 絵画

絵画は、善光寺大勧進が所蔵する絹本著色日吉山王曼陀羅図(15世紀)をはじめとする仏画のほか、真田宝物館が所蔵する松代藩五大祭礼絵巻と呼ばれる真田家が所蔵していた善光寺祇園祭、松代天王祭、戸隠の柱松神事、雨宮日吉山王社の御神事、武水別八幡神社の大頭祭の様子をそれぞれ卷子仕立てにした絵巻などがある。

また、無住の仏堂や地域公民館として利用されているかつての仏堂には、ヤショウマや施餓鬼会などの行事の際に使用していた仏画を残しているところが見られる。

カ 彫刻

市内には、古寺社が多く存在し、そこに祀られている神仏像にも古いものがみられる。第四地区の新田町近辺で、近世に善光寺仏師を名乗り活動していた長谷川姓の仏師の手による仏像が各所に残されている。

このほか、鬼無里、中条地区にまたがる虫倉山を拠点に山岳修行をしていた木食聖の一派が修行の一環として作った仏像が、虫倉山周辺地域の寺社や家庭に残されている。これらは、木片などから作られた素朴な仏像で、主な製作者であった木食山居の名前から山居仏と呼ばれて親しまれている。



長谷川政七作 弘法大師(鬼無里地区)

キ 工芸品

工芸品は、真田宝物館が所蔵する松代藩主真田家の大名道具の能装束や蹴鞠道具のほか、善光寺大勧進が所蔵する刺繍阿弥陀三尊来迎図がある。繡仏の阿弥陀来迎図は、鎌倉から室町時代頃に庶民の間に広がった浄土信仰の隆盛に合わせて多く作られ、現存するものは少なく、県内では唯一のものである。

ク 書跡・典籍

典籍として、親鸞聖人絵伝や鬼女紅葉狩の図(いずれも市指定文化財)を所蔵する長沼地区の西巖寺では、源氏物語五十四帖や一条兼良書住吉物語が所蔵されている。また、書跡として、古牧地区の光蓮寺では、永享11年(1439)に京都本願寺に参詣した際に授かった奥書に蓮如上人書跡とある^{ひじりのおしえ}聖教が所蔵されている。そのほか高井鴻山筆の川中島養蚕神社幟旗、勝海舟筆の伊勢社五反幟、佐久間象山筆の南俣神社幟旗がある。

ケ 伝統工芸品

戸隠の竹細工は、戸隠の山野に自生するチシマザサ(根曲がり竹と呼ばれている。)を材料に作られる箕や籠で、その起源は不明ながら、山ノ内町の須賀川に慶安年間(1648～1652)頃に戸隠から移住してきた徳武某ら三人によって竹細工が伝えられたとの記録が残されている。



戸隠竹細工

根曲がり竹は、茎が細くしなやかなため、細かな細工がしやすく、丈夫である点の特徴で、農作業の道具としての箕や籠はもとより、明治時代に入って養蚕が盛んになると蚕籠、現在では蕎麦ざるといったように、それぞれの時代の需要に合うように製品の形を変えながら100年以上継続して作られている。

昭和58年(1983)に、県内の他の竹細工産地とともに信州竹細工として長野県の伝統的工芸品に指定されている。

コ 食文化

近世以降、市の平地部では米と麦の二毛作が、山間部では麦やソバの栽培が行われてきたため、うどん、そば、おやきといった粉食が発達した。調理法は、麺を短めに平たくして、いろいろな野菜と一緒に煮込む「おぶっこ」や、投げ籠に入れたそうめんをあらかじめ野菜等を入れた煮汁に浸し、一杯分の椀の中に煮汁と合わせて入れて食す「おとうじ」など多様である。

「おやき」は、小麦粉を水で溶いて練った生地には餡となる具材を載せて包んで蒸す、あるいは焼いた饅頭で、餡となる具材には、この地で採れる丸茄子や野沢菜、切り干し大根が使われることが多い。かつては、米食の間を埋める代用食として家庭で日常的に作られていたが、現在では、長野県を代表する郷土食として広く知られるようになった。



おやき

本市西部の中山間地を含む西山地方と呼ばれる地域で

は、冠婚葬祭の際に「えご」と呼ばれる食べ物が出される。「えご」は、エゴグサと呼ばれる海藻の煮凝りで、羊羹状に固めた後、刺身状に切って盛り付けされる。これを酢味噌などにつけて食す。「えご」自体は無味に近く、磯の風味が強い。隣県の新潟では、日常食として食べられるのに対し、ハレの食品として食べられることや、煮凝りの際にあえて濾さずに磯の風味を強く出した方が好まれるなどの点は、海がない地域ゆえの習慣といえる。



えご

季節の風物詩として春先に食べられるのが、根曲がり竹のタケノコである。根曲がり竹は、厳寒地に自生するチシマザサのことで、中山間地域に広く見られる。根曲がり竹のタケノコは、缶詰の鯖水煮と一緒に味噌汁にして食べられることが多い。そのため、時季になるとスーパーなどでは、鯖の水煮缶が積まれる光景がみられる。

サ 絵解き

絵解きは、仏画を用いて寺社の縁起や仏教説話などを説明する文芸のひとつで、県宝の善光寺如来絵伝を所蔵する淵之坊のほか、往生寺や西光寺など善光寺近辺の寺院で行われている。

刈萱親子の伝承が伝わる往生寺と西光寺では、往生寺で「刈萱親子御絵伝」（2幅）、西光寺で「刈萱道心石童丸御親子御絵伝」（2幅）を用いて刈萱道心と石童丸の親子の物語を口演している。また、西光寺では「六道地獄図」（6幅）の絵解きも行っている。

このほか、絵解きを広めるため、長野郷土史研究会によって善光寺如来絵伝や涅槃図などの絵解きも行われている。



絵解きの様子

シ 北信流

北信流とは、酒宴の途中、年配者の発言によって酒宴の主催者と主賓が宴席の中心に進み相対し、肴と称する謡の後、杯を酌み交わすというものである。北信流が行われると用事のある参加者は退席ができるとして、酒宴の中締めの意味もある。

かつて農家の男性は、突然に肴を出すよう指名されてもよいように謡の一つ二つは覚えるのが当たり前とされ、嗜みとして冬の農閑期などを利用して謡曲の師匠について謡を習ったという。

北信流は、明治以降に北信濃に広まったもので、北信一帯に伝わる。近世松代藩の武士階級に広まっていたものが、近代に入って北信一帯の民衆に広まったと考えられている。

ス 山城

市内には200近くの山城が確認されているが、大半は、鎌倉時代から戦国時代に在地の国人層や、川中島の戦いに際して武田氏、上杉氏によって築かれたものである。特に、善光寺平の掌握をめぐる武田氏と上杉氏との間でおきた川中島の戦いは長期間にわたるものであったため、善光寺を取り囲む旭山城、葛山城、大峰城や市北部に作られた髻山城、若槻山城、市南部の尼巖城、清滝城、寺尾城など、川中島の戦いに関わるものが多くある。



旭山城の縄張り

セ 石造物

石造物で特徴的なものに、徳本行者の六字名号塔がある。独特の書体で「南無阿弥陀仏」と刻まれ、脇に「徳本」の名と丸に十に似たマークのような花押が刻まれている念仏塔である。

これは、近世の念仏行者徳本(1758～1818)が念仏行の布教に用いた六字名号札を石碑に刻んだもので、市内で96基を数える。そのほとんどが、徳本行者が念仏教化のために訪れた文化13年(1816)の年号を刻んでおり、教えを広めに歩いた徳本行者の行程をうかがい知ることができる。



徳本名号塔
(更北地区 法蔵寺)

ソ 埋蔵文化財包蔵地

本市には、1,100件を超える周知の埋蔵文化財包蔵地がある。

地区別では、松代、篠ノ井、若穂、豊野地区に多く、これらの地区は、指定文化財が多く所在する地区でもある。

また、種類別では、古墳が群を抜いて多く、城館跡、集落跡と続く。地区をまたぐ包蔵地は、6か所を数える。

■ 周知の埋蔵文化財包蔵地件数一覧

(令和4年(2022)3月末現在)

	古墳	城館跡	集落跡	生産地	墳墓	社寺跡	祭祀跡	散布地	その他	計
第一	1	1	3							5
第二	21	3	5			1		1		31
第四		1	1					1		3
芹田		6	5					2		13
古牧	1	5	4					3		13
三輪		2	6					3		11
吉田		6	12					4		22
古里	3	1	4				1	5	1	15
柳原		2	4					3		9
浅川	7	3	4					14		28
朝陽		2	3					1		6
若槻	12	8	18	3				29	1	71
長沼		3								3
安茂里	34	9	3		1			10		57
小田切	2	5						8		15
芋井		4		1			1	16		22
篠ノ井	56	21	19	2		1		28		127
松代	98	16	8	5	2	1	1	25		156
若穂	66	12	9	1	1			30		119
川中島		4			1			3		8
更北		4	3					3		10
七二会		9	1					11		21
信更	14	8	1	9				38		70
豊野	30	4	4	6	6	6		48	1	105
戸隠		17				2	1	20	1	41
鬼無里		1						14	1	16
大岡	1	2	1					19		23
信州新町	3	16	6		3			33		61
中条		3	1		3			18		25
計	349	178	125	27	17	11	4	390	5	1106

※地区をまたぐ包蔵地：第一・第二・第三・第四(集落跡)1、第三・第四(集落跡)1、古牧・芹田(散布地)1、柳原・朝陽(散布地)1、更北・川中島(散布地)1、浅川・若槻・吉田・三輪・上松(散布地)1